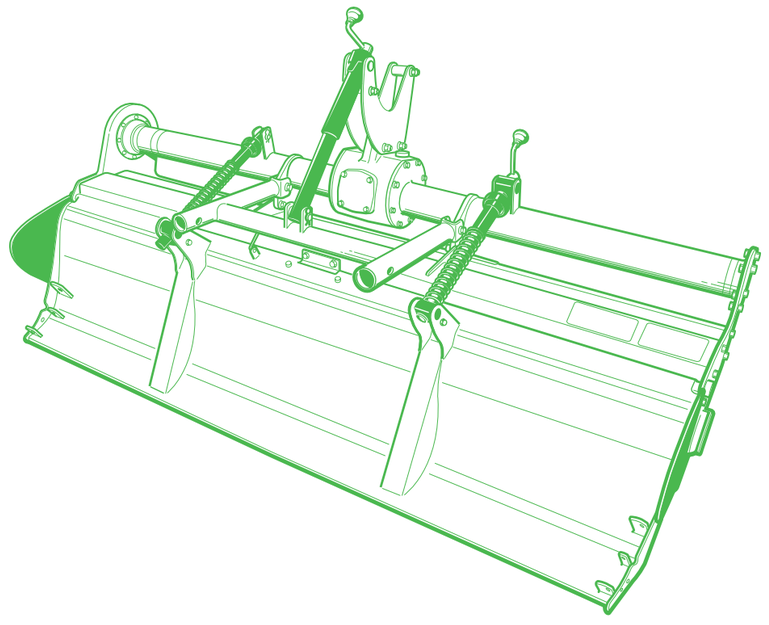
ロータリ

取扱説明書

RD205RC 225RC 245RC



ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください

はじめに

このたびは製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は製品の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいてじゅうぶん理解され、お買上げの製品が優れた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになった後必ず大切に保存し、分からないことがあったときには取り出してお読みください。なお、製品の仕様変更などにより、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げいただいた購入先に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について　本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の型式と機械番号（製造番号）は…？

型　　式 _____

機械番号（製造番号） _____

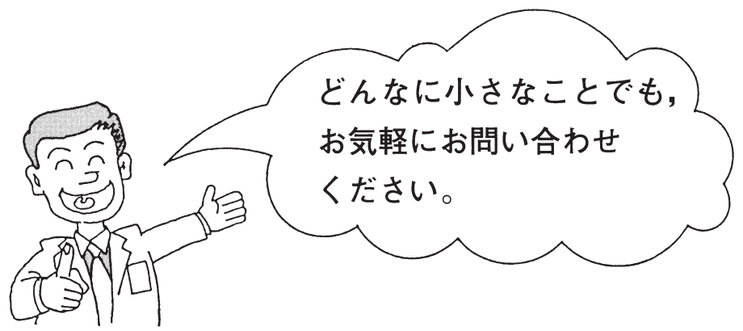
●ご使用状況は…？

（何速で，どんな作業のとき）

●どのくらい使用されましたか？

（約 _____ アール使用後）

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



（ご相談窓口）お買いあげ先

ＴＥＬ　　（　　）

RD205RC/225RC/245RC
BA．C．1-1．0．AK

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明は RD205RC を基本とし、RD205RC と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。

● キャスタ仕様 ····· キャスタスタンド仕様、スーパー反転 Z 爪
（RD205RC、RD225RC、RD245RC）

その他について

商標について

商　標	商標権者について
AdBlue®	AdBlue はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。本文中では、それらの名称には必ずしも商標表示（™、®）を付記していません。

目次

安全に作業をするために 3

サービスと保証および公道走行時の注意 9

サービスと保証 9
1. ご相談窓口 9
2. 補修用部品の供給年限について 9
公道走行時の注意 9

各部の名称 10

ロータリの外観 10

ロータリの着脱のしかた 11

取付け前の準備 11
1. トラクタの３点リンクの取付け位置の確認 11
2. けん引ヒッチの取外し 11
3. オートヒッチフレーム、ユニバーサルジョイントの取付け 11
トラクタへの装着 13
1. ロータリの着脱姿勢の調整 13
2. 取付け方法 13
ロータリの取外し方法 15
ユニバーサルジョイントの取外し方法 16
キャスタスタンドの取扱い 16
1. キャスタスタンドの取付け方法 16
2. キャスタスタンドの取外し方法 17
3. キャスタスタンドの格納 17

ロータリの上手な使用方法 18

適応作業速度 18
なた爪の取付けおよび取外し方法 18
1. 草巻付き防止ワイヤ 19
1.1 草巻付き防止ワイヤの交換 19
1.1.1 草巻付き防止ワイヤの購入部品と取付け方法［**RD205RC**］ 19
1.1.2 草巻付き防止ワイヤの購入部品と取付け方法［**RD225RC**］ 21
1.1.3 草巻付き防止ワイヤの購入部品と取付け方法［**RD245RC**］ 23
1.2 草巻付き防止ワイヤの取付けおよび取外し方法 24
1.3 ワイヤの調整方法 26
2. 均平耕法（耕起、細土、代かき、および整地作業） 27
3. 1 つ盛り耕法（乾土効果を必要とする水田の耕起および細土作業） 27
4. 2 つ盛り耕法（乾土効果を必要とする水田の耕起および細土作業） 28

ロータリの調整 29

延長カバー（オプション）の使用方法 29
1. 延長カバーの取付け方法 29
マッドレスカバーの上手な使用方法 30
スプリングロックの調整 31
1. スプリングロックの位置 31
2. スプリングロックの位置決め 32
イージーリフタの調整 32
1. ロータリカバー 2 を上げた状態で保持する場合 32
2. ロータリカバー 2 の保持を解除し、下げる場合 33
逆転 PTO の使用方法 33
爪軸交換のしかた 34
日農工規格（標準 3P-Ⅱ型）に適合する作業機への交換 34

日常点検および作業前の点検 36

点検箇所 36

点検のしかた....36
1. ユニバーサルジョイントのロックピンの確認....36
ロータリの簡単な手入れと処置....37
廃棄物の処理について....37
洗車時の注意....37
定期点検箇所一覧表....38
給油一覧表....39
各部の油量点検と交換....40
1. ギヤケース....40
2. チェーンケース....40
グリースの補給と注油....40
1. ユニバーサルジョイント....41
2. ホルダ（ジョイント）、ロータリ入力軸....41
3. 爪軸ベアリングケース....41
4. オートヒッチフレーム各回動部....41
5. スプリングロックしゅう動部およびイージーリフタしゅう動部、回動部....41
6. 草巻付き防止ワイヤの U 金具部....42
マッドレスロータリ、ゴムカバー用補修剤の使用方法....42
ロータリ分解時の注意....43
付表....44
主要諸元....44
アタッチメント一覧表....45
標準付属品....46
推奨オイルおよびグリース一覧表....46
1. ギヤオイル....46
2. グリース....46
主な消耗部品一覧表....47
索引....50

安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、必ず本書をよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は次のとおりですが、これ以外にも、本文の中で危険、警告、注意、重要、補足としてそのつど取り上げています。

ロータリを使用する前の注意事項

1. 正しい運転方法

- ロータリを使用する前に、必ずこの取扱説明書とトラクタ本機の取扱説明書、および機械に貼ってある安全ラベルをよく読み、理解したうえで作業してください。
- ロータリを他人に貸すとき、また他人に作業を依頼するときは、事前に操作のしかたを教え、本書を読ませてください。
- 本書およびラベルの内容が理解できない人や子供には、絶対に作業させないでください。

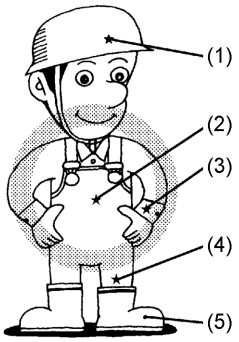


1RGER00014A01

2. 作業に適した服装

- ダブダブの衣服やかさばった衣服を着用しないでください。
  回転部分や操縦装置に引っ掛かり事故の原因になります。
- 安全のため、ヘルメットと滑りにくい靴を着用し、必要に応じて安全靴、保護メガネや手袋などの保護具を着用してください。

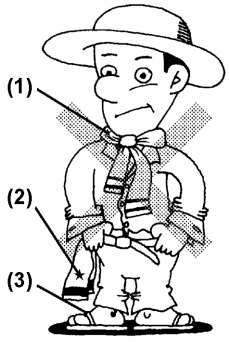
作業時の服装（良い例）



1XZMN00001A01

(1) ヘルメット
(2) 活動的な服装
(3) 袖口きっちり
(4) スソきっちり
(5) 滑りにくい靴

作業時の服装（悪い例）



1XZMN00001A03

(1) 巻きタオル
(2) 腰タオル
(3) サンダル

ロータリの着脱時の注意事項

1. ロータリの着脱

- PTO を中立にして平たんな場所で行ってください。
- トラクタとロータリの間に立たない、また立たせないでください。
  挟まれるおそれがあります。



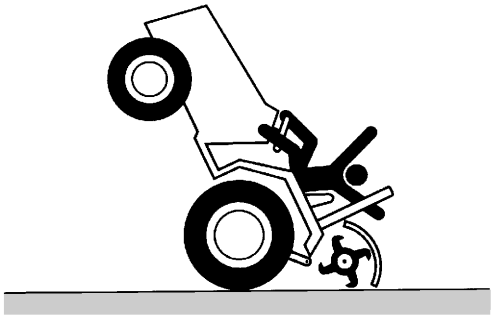
1RGER00015A01

2. 共同作業時の注意

- 二人作業の場合はお互いに合図しあい、注意して作業してください。
- ３点リンクの止めピンやユニバーサルジョイントのロックピンが、確実にセットされていることを確認してください。

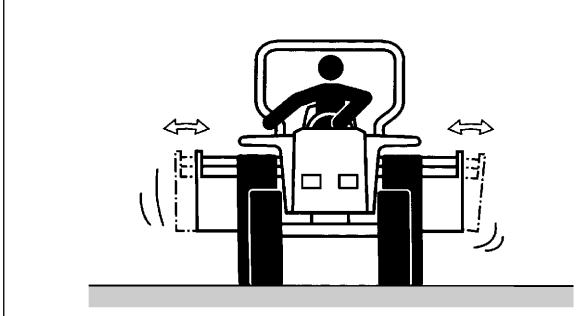
3. 転倒防止のための重量バランス

- 装着するトラクタによってそれぞれ前後バランスが異なる場合がありますので、前部ウエイトの指示がある場合は必ず装着してください。
  前輪が浮き上がり事故の原因になります。



1RGER00016A01

- ロアリンクのチェックチェーンは、ロータリが左右に 1 cm～2 cm 動く程度に調節してください。
  走行時、ロータリが揺れてバランスをくずし事故の原因になります。



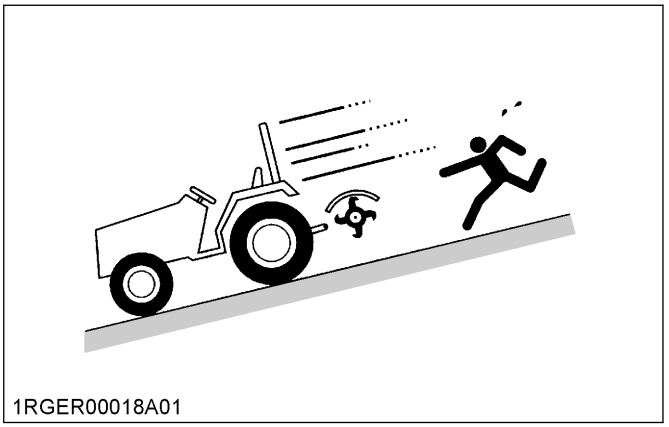
1RGER00017A01

- ロータリ着脱時、キャスタスタンド仕様はキャスタスタンドを必ずセットしてください。
  ロータリが倒れ、事故の原因になります。

耕うん爪の点検や交換および調整時の注意事項

1. 安全に耕うん爪を点検、交換、および調整するために

- トラクタを平たんな場所に置いてください。
- 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止してください。
  トラクタが動き出すおそれがあります。

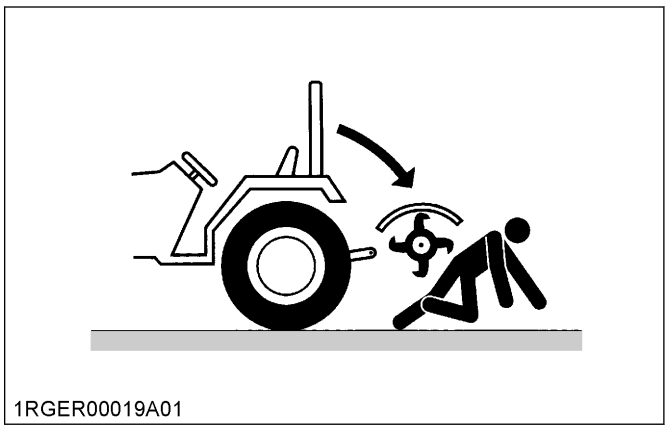


1RGER00018A01

- ロータリカバー 2 は、イージーリフタとセットピンを使用し、確実に固定してください。

2. ロータリを上げた状態で点検整備を行う場合

- ロータリが落下しないよう、作業前に必ずトラクタの油圧をロック（停止）してください。
  油圧をロック（停止）する方法はトラクタの型式によって異なります。
  （詳細は、油圧のロック（停止）方法について（5 ページ）参照）

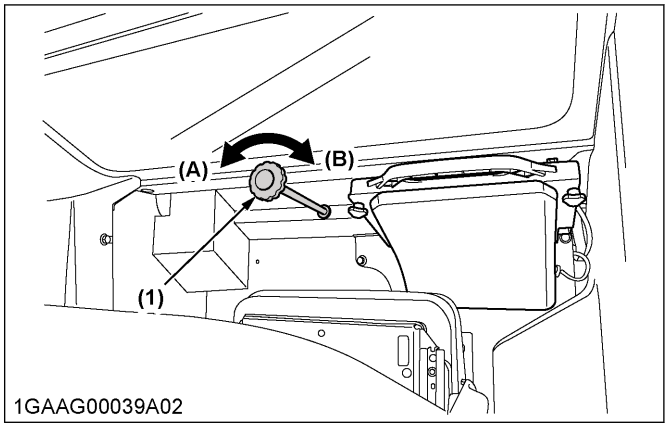


1RGER00019A01

- 油圧ロックレバーまたは落下速度調整グリップでロックした後、ポジションレバーを前方に倒して、ロータリが落下しないことを必ず確認してください。
- 確認後、再度ポジションレバーを上げておいてください。
- トラクタの油圧をロックするとともに適切なジャッキまたはブロックを爪軸の下に置き、落下防止を行ってください。

2.1 油圧のロック（停止）方法について

油圧ロックレバーを右いっぱいに回し、トラクタの油圧をロックしてください。



1GAAG00039A02

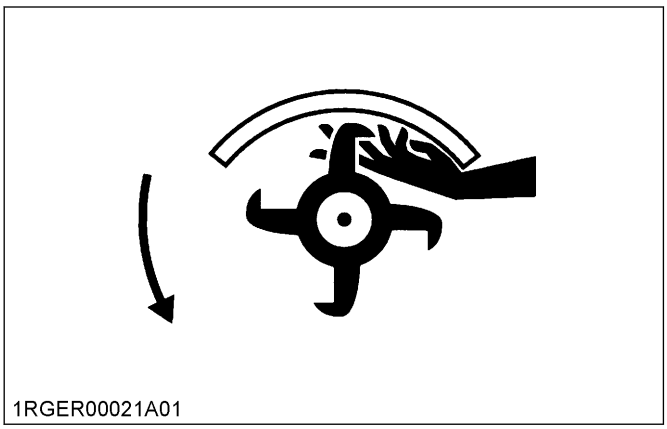
(1) 油圧ロックレバー

(A) 解除（速）
(B) 油圧ロック（遅、停）

運転時の注意事項

1. ロータリ使用時の注意事項

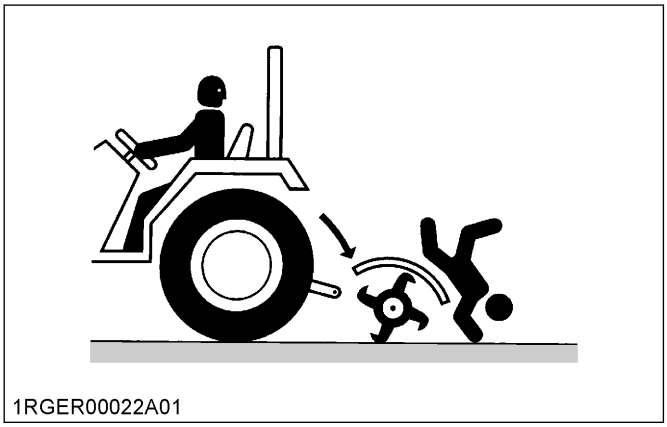
- 安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。また紛失したり損傷した場合、交換してください。
  巻込まれや切傷事故の原因になります。
- ユニバーサルジョイント、爪軸など回転部分には近づかないでください。
  裂傷や巻込まれなど、事故のおそれがあります。



1RGER00021A01

2. 同乗禁止

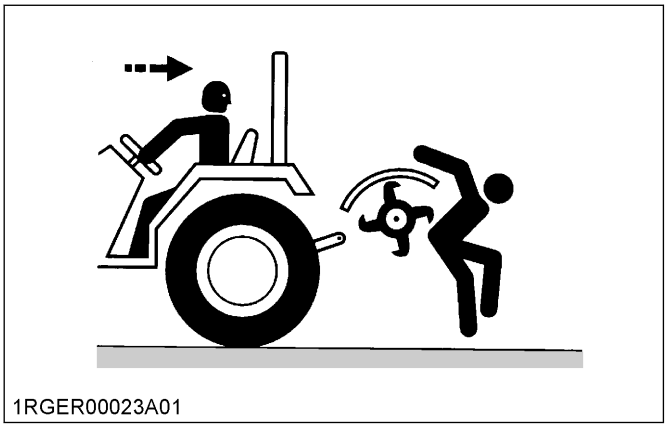
- ロータリの上に人を乗せないでください。



1RGER00022A01

3. 運転時の注意、周囲の安全

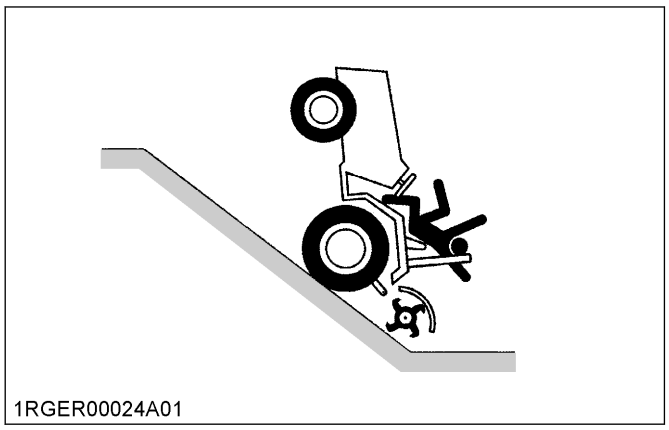
- 必ず座席に座ってロータリ作業を行ってください。作業中、トラクタからの飛降り、飛乗りは重大事故につながります。
- ロータリを持ち上げ、バックおよび急旋回するときは、周囲の安全確認を行ってください。



1RGER00023A01

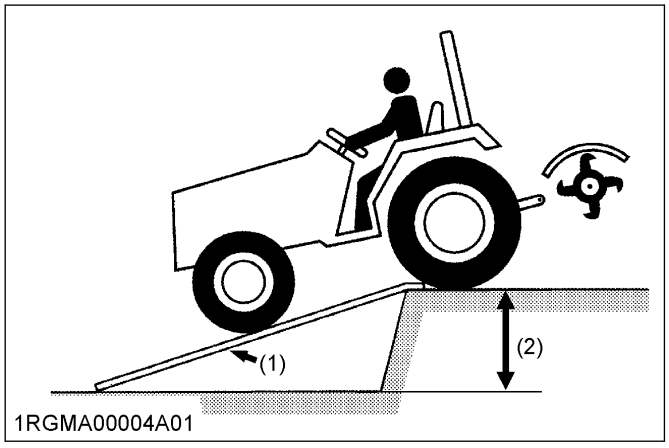
4. 登坂時の注意

- 傾斜地やあぜを登るときは、転倒防止のためロータリを下げて前輪の浮上がりを防いでください。


1RGER00024A01

5. あゆみ板の使用

- ほ場の出入りなどで、高低差の大きい急傾斜の登り降りや溝越えが必要な場合、あゆみ板を使用し、確実に固定してから低速で行ってください。
  あゆみ板は段差の 4 倍以上の長さのものを使用してください。

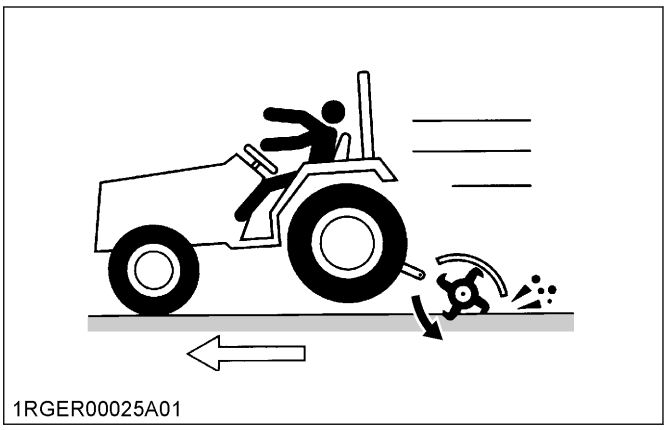


1RGMA00004A01

(1) あゆみ板
(2) 段差

6. かたいほ場での対処法

- 耕うん中、かたいほ場でトラクタが前に飛び出した場合、すぐクラッチを切りブレーキを踏んでください。次により遅い車速に変速し、爪軸回転を上げて飛出しが起こらないように作業してください。
  2 輪駆動、4 輪駆動の切り換え可能なトラクタは、4 輪駆動にしてください。


1RGER00025A01

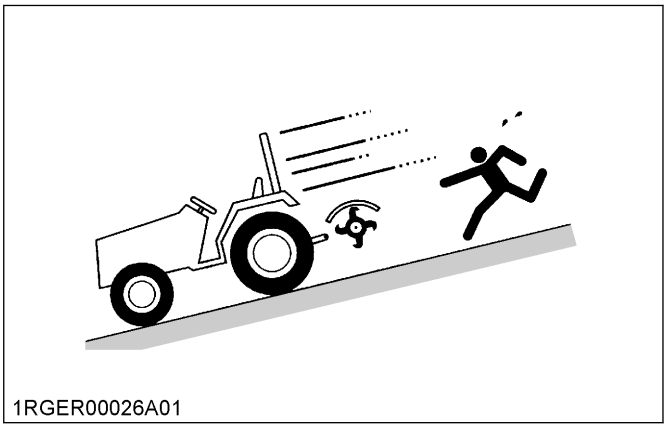
7. 交通法規遵守

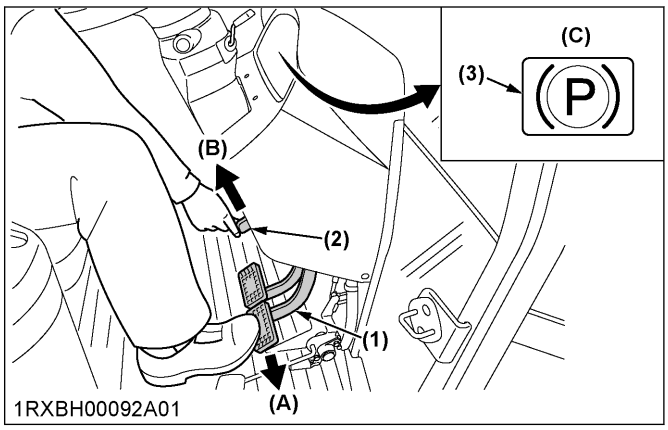
- インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、[道路運送車両法の保安基準]を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組み合わせごとに、[保安基準]を満たしていることの確認が必要です。

格納時の注意事項

1. 駐車場所、駐車時の操作

- トラクタを平たんな場所に置いてください。
- ロータリを下げ、地面に接地させてください。
  ロータリが落下するおそれがあります。
- 駐車ブレーキを掛け、エンジンを停止してください。
  トラクタが動き出すおそれがあります。


1RGER00026A01

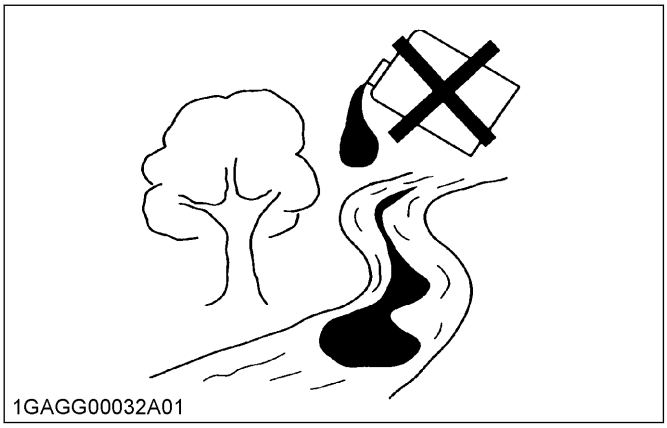


(1) ブレーキペダル
(2) 駐車ブレーキレバー
(3) 駐車ブレーキランプ
(A) 踏込む
(B) 上げる
(C) 点灯

- ロータリに寄りかかったり、乗ったりしないでください。
  ロータリが転倒するおそれがあります。

廃棄物の処理

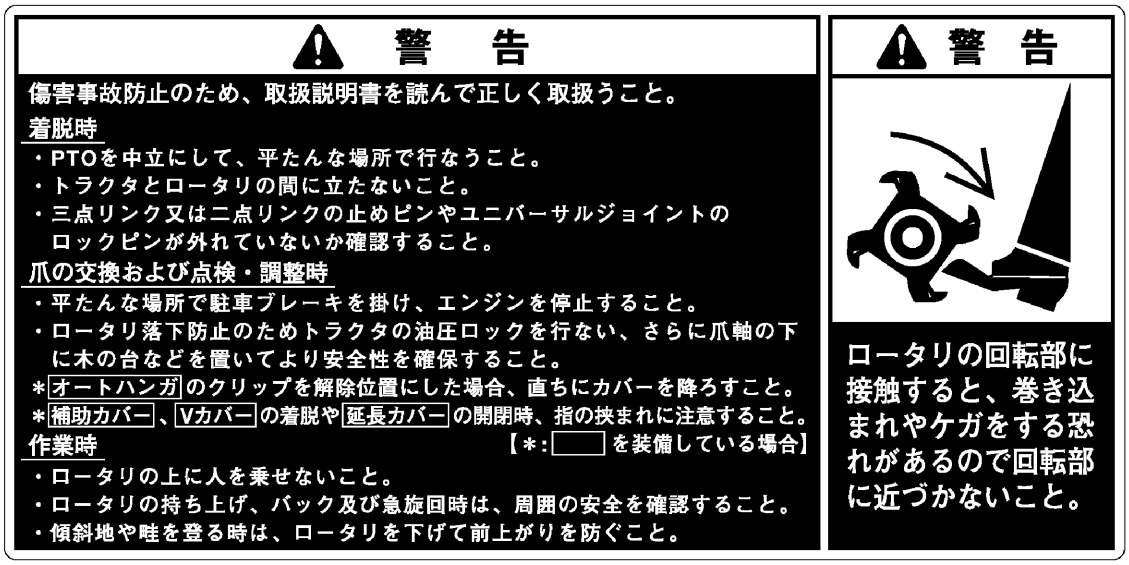
- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
  - 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
  - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
  - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水（AdBlue）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。



⚠ 安全に作業をするために

安全ラベルと貼付け位置

(1) 品番　99660030850

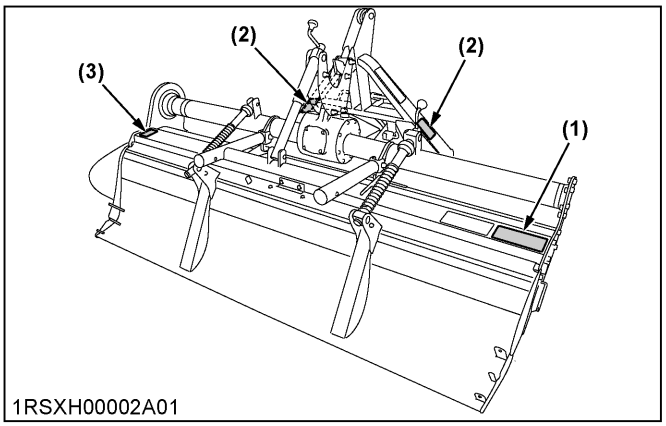


(2) 品番 99660030860



(3) 品番 99660030870





1RSXH00005A01jaJP

安全ラベルの手入れ

- 安全ラベルはいつもきれいにして、傷つけないようにしてください。
- 安全ラベルがよごれた場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布でふいてください。
  シンナーやアセトンなどの溶剤を使うと、文字や絵が消えることがありますので絶対に使わないでください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接安全ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しい安全ラベルに貼り替えてください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼り付けされている部品を新部品と交換するときは、安全ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証および公道走行時の注意

サービスと保証

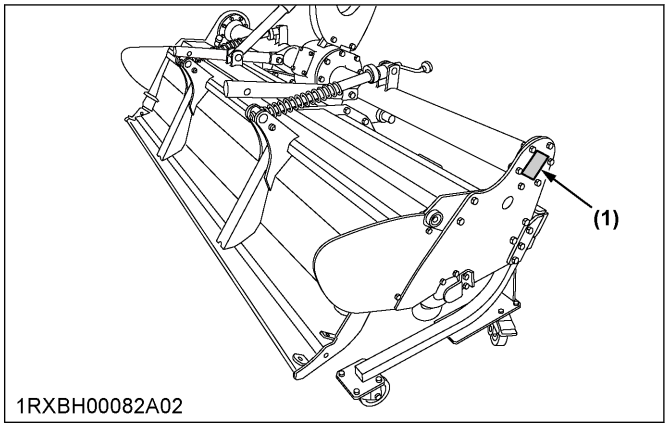
この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

1. ご相談窓口

⚠ 警告

- **危険ですので、機械の改造はしないでください。改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。**

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれご相談窓口を設けておりますので、お気軽にご相談ください。
その際、ロータリ名称と機械番号を併せてご連絡ください。
なお、部品をご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。



(1) ロータリ名称、機械番号

2. 補修用部品の供給年限について

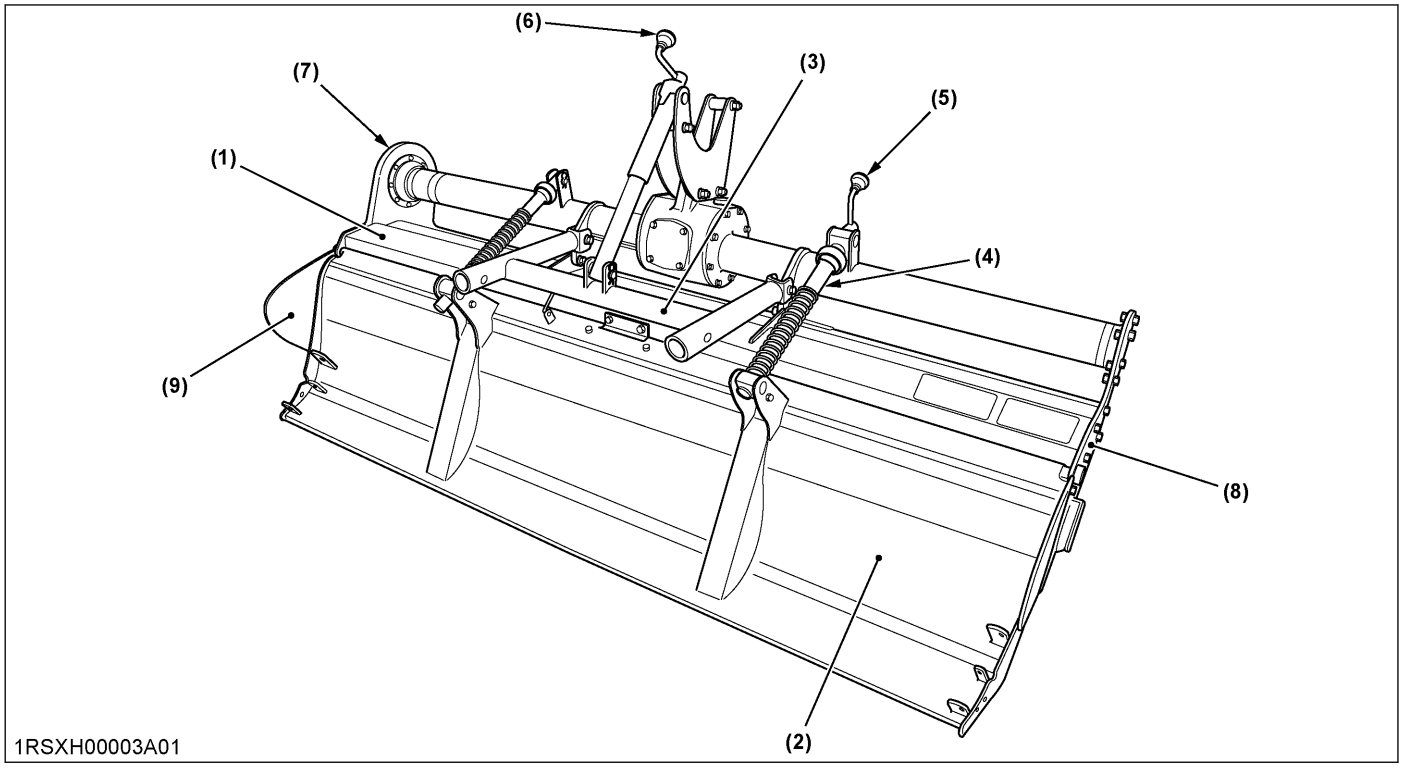
この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打ち切り後 12 年といたします。
ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などについてご相談させていただく場合もあります。
補修用部品の供給は原則的に上記の供給年限で終了致しますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

公道走行時の注意

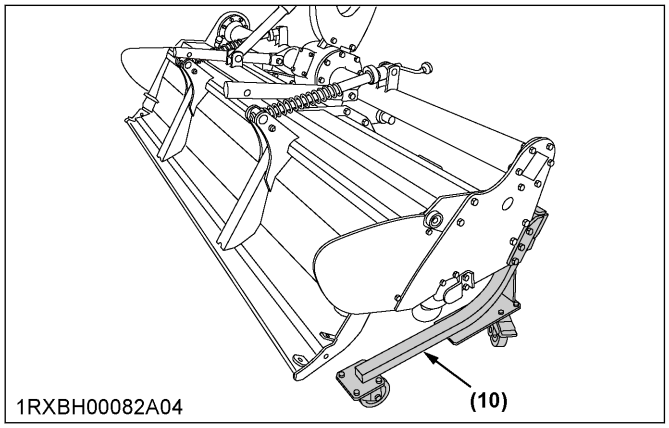
インプルメントやアタッチメントを装着した状態では、［道路運送車両法の保安基準］を満たしていなければ道路走行することはできません。インプルメントやアタッチメントと、トラクタとの組み合わせごとに、［保安基準］を満たしていることの確認が必要です。
農耕トラクタに関わる［道路運送車両法の保安基準］の運用見直しにより、直装型の作業機については、条件を満たせば装着した状態で公道を走行することができるようになりました。
キャスタスタンドは、公道走行時を含むトラクタ走行時には取外し、ロータリの着脱、単体での移動・保管にのみ使用してください。
取り外したキャスタスタンドは格納することができます。
（詳細は、キャスタスタンドの格納（17 ページ）を参照）

各部の名称

ロータリの外観



(1) ロータリカバー *1*
(2) ロータリカバー *2*
(3) 後 *2* 輪ホルダ *1*
(4) ロッド
(5) イージーリフタハンドル
(6) 後 *2* 輪ハンドル
(7) チェーンケース
(8) サイドフレーム
(9) サイドカバー



(10) キャスタスタンド

ロータリの着脱のしかた

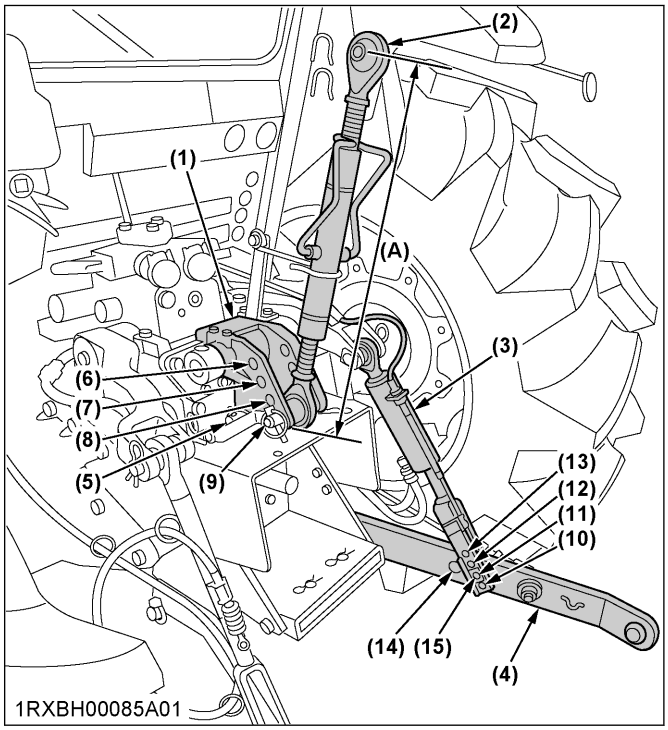
取付け前の準備

1. トラクタの３点リンクの取付け位置の確認

警告

- **トップリンク取付け位置、トップリンク長さ、リフトロッド取付け穴位置、ロアリンク取付け穴位置を間違うと、ジョイント抜けやトップリンクの破損などによる傷害事故のおそれがあります。**

トラクタの 3 点リンク各部の位置や長さが、次図および次表の示すとおりであるか確認してください。



(1) トップリンクブラケット
(2) トップリンク
(3) リフトロッド
(4) ロアリンク
(5) ドラフトストッパピン
(6) トップリンク取付け穴 *A*
(7) トップリンク取付け穴 *B*
(8) トップリンク取付け穴 *C*
(9) トップリンク取付け穴 *D*
(10) リフトロッド取付け穴 *A*
(11) リフトロッド取付け穴 *B*
(12) リフトロッド取付け穴 *C*
(13) リフトロッド取付け穴 *D*
(14) ロアリンク取付け穴（前）
(15) ロアリンク取付け穴（後）
(A) トップリンクの長さ

トラクタ型式	GV60～70 GV601～701	GVK60～70 GVK651、701
使用する補助ユニット	U60QRGV-1RF	
トップリンク長さ（mm）	570	
リフトロッド左、右の取付け穴	(11)	(10)
ロアリンク取付け穴	(15)	
トップリンクブラケット取付け穴	(9)	

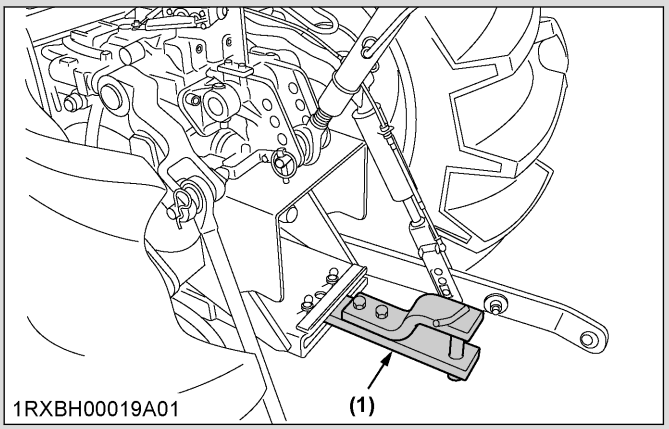
補足：

- **トップリンク長さは装着時の目安とし、ロータリまたはユニバーサルジョイントから異音（ガラガラ音）が出る場合は±5 mm の範囲で調整してください。**

2. けん引ヒッチの取外し

警告

- **トラクタにけん引ヒッチが付いている場合は、事前に取り外してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。**



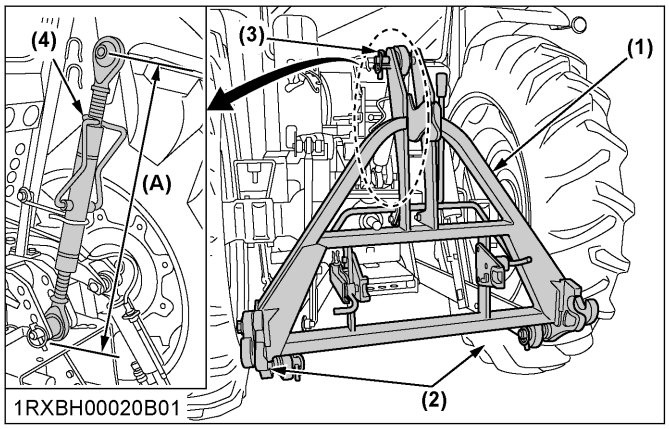
(1) けん引ヒッチ

3. オートヒッチフレーム、ユニバーサルジョイントの取付け

重要：

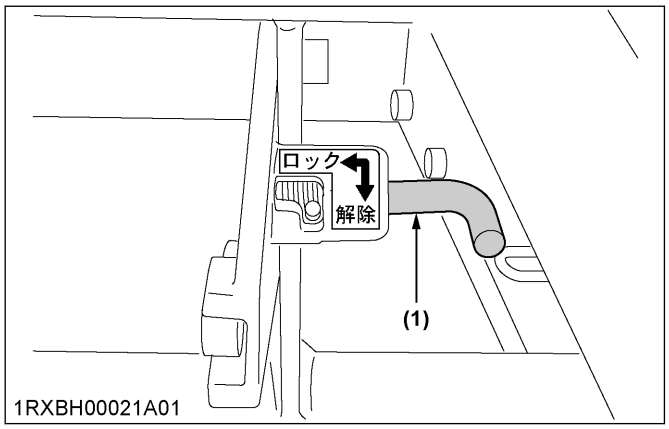
- **安全カバー回転止め鎖でユニバーサルジョイントを吊らないでください。**

1. ロアリンクにオートヒッチフレームを取り付け、セットピンで抜け止めをします。
2. トップリンク長さを調節し、オートヒッチフレームの上部取付部にピンで取り付け、セットピンで抜け止めをします。



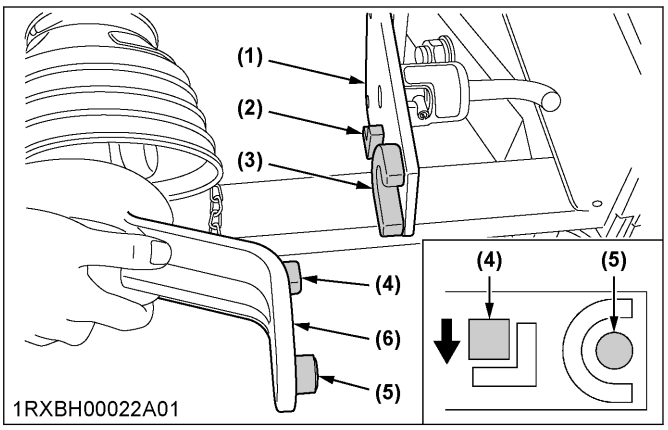
(1) オートヒッチフレーム　　*(A)* トップリンク長さ
(2) セットピン
(3) ピン
(4) トップリンク

3. サポート（ジョイント）のレバーを解除位置にします。



(1) サポートジョイントのレバー

4. サポート（ジョイント）の左右のピン（丸）受け部に後方からホルダのピン（丸）部を挿入し、取付けピン（角）をピン（角）受け部に上方から乗せます。

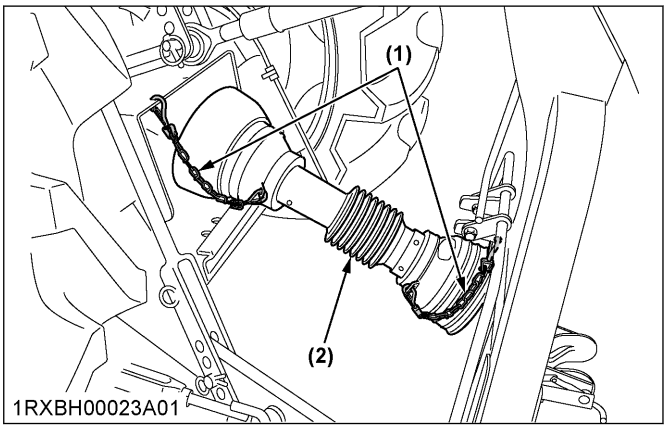


(1) サポート（ジョイント）
(2) ピン（角）受け部
(3) ピン（丸）受け部
(4) ピン（角）
(5) ピン（丸）
(6) ホルダ

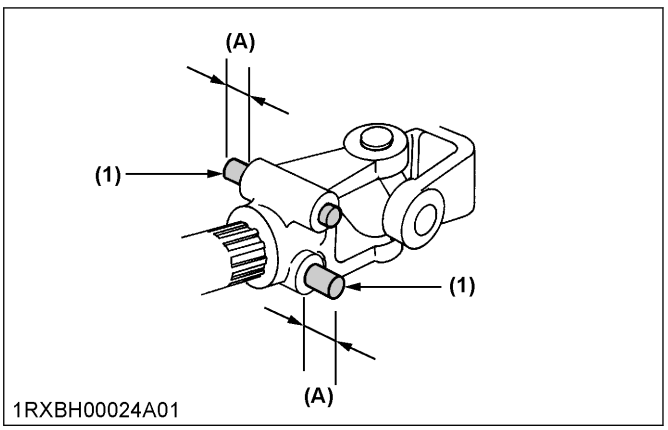
5. ユニバーサルジョイントをトラクタ側の PTO 軸に取り付けます。

⚠ 警告

- **ユニバーサルジョイントのロックピンが、正確に溝にはまったかどうかの確認は、ピンの頭が 7 mm 以上出ているか確認してください。**

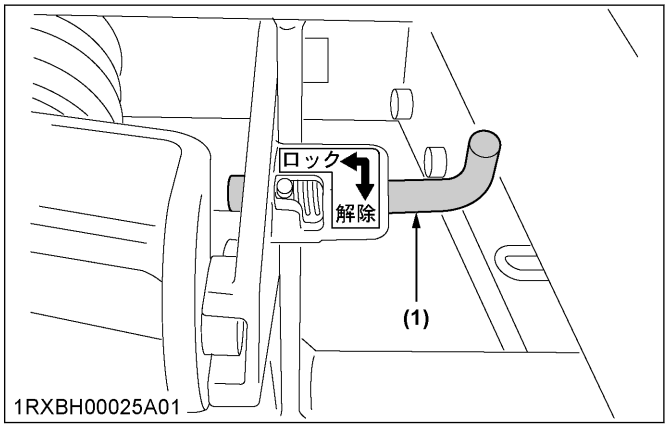


(1) 安全カバー回転止め鎖
(2) ユニバーサルジョイント



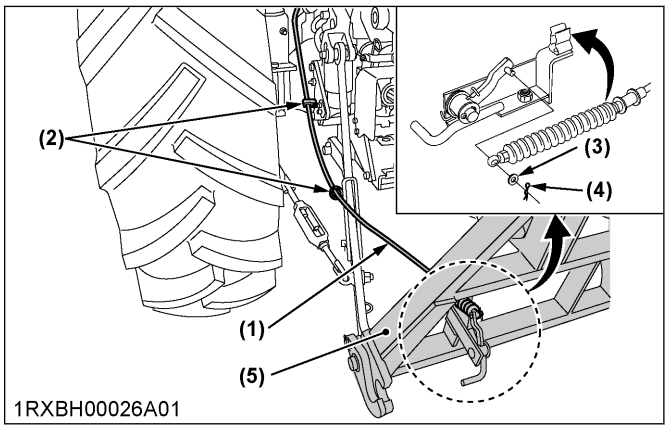
(1) ロックピン　　*(A)* *7 mm* 以上

6. サポート（ジョイント）のレバーをロック位置にします。



(1) サポート（ジョイント）のレバー

7. 安全カバー回転止め鎖を取り付けてください。ユニバーサルジョイントの鎖を、トラクタ側は PTO 軸カバーに、ロータリ側はオートヒッチフレームの中央部の穴に取り付けます。
8. 耕深ワイヤをガイドに通して、ヒラザガネとスナップピンでオートヒッチフレームに取り付けます。



(1) 耕深ワイヤ
(2) ガイド
(3) ヒラザガネ
(4) スナップピン
(5) オートヒッチフレーム

補足：

- **オートヒッチフレームとユニバーサルジョイントをトラクタから着脱する作業は、別売りのオートヒッチフレームスタンドを使用すると簡単です。**
  取扱い方法はオートヒッチフレームスタンドに同梱の取扱説明書をご参照ください。

品名	品番
オートヒッチフレームスタンド	99660030880

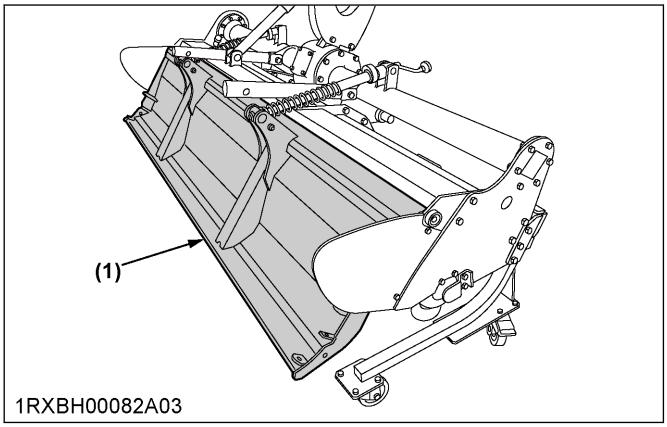
トラクタへの装着

⚠ 警告

- **ロータリの取付けおよび取外しは、PTO を中立にし、平たんな場所で行ってください。**
- **トラクタとロータリの間には立たないでください。はさまれるおそれがあります。**

1. ロータリの着脱姿勢の調整

1. キャスタスタンドを装着します。
（詳細はキャスタスタンドの取付け方法（16 ページ）を参照）
2. ロータリカバー 2 を最下げの位置にセットします。
（詳細はイージーリフタの調整（32 ページ）を参照）



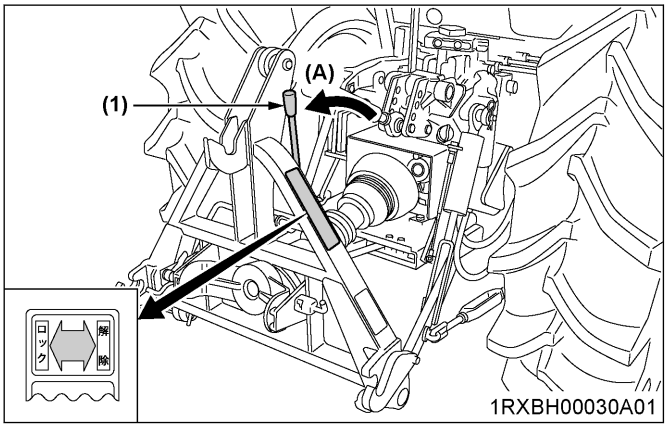
(1) ロータリカバー *2*

重要：

- **ロータリカバー 2 を必ず最下げの位置にセットしてください。**

2. 取付け方法

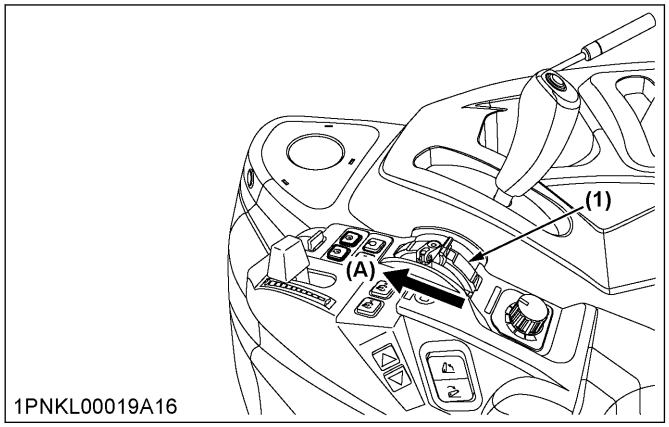
1. レバーをロックの位置にセットします。



(1) レバー　　*(A)* ロック

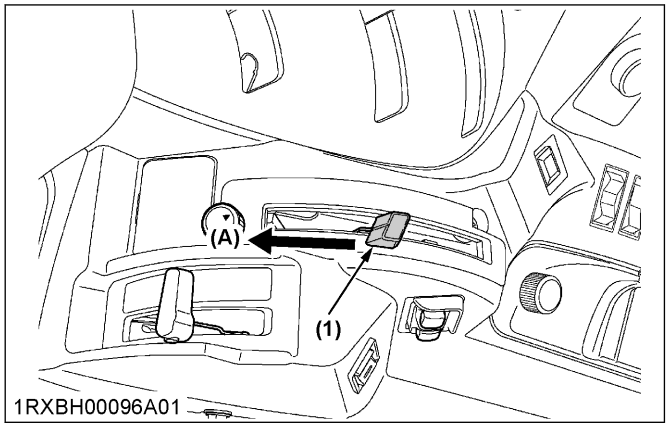
2. トラクタに乗車して、ポジションレバーを下げ方向に操作し、オートヒッチフレームを降ろします。

[GV601、GV（K）651、GV（K）701]



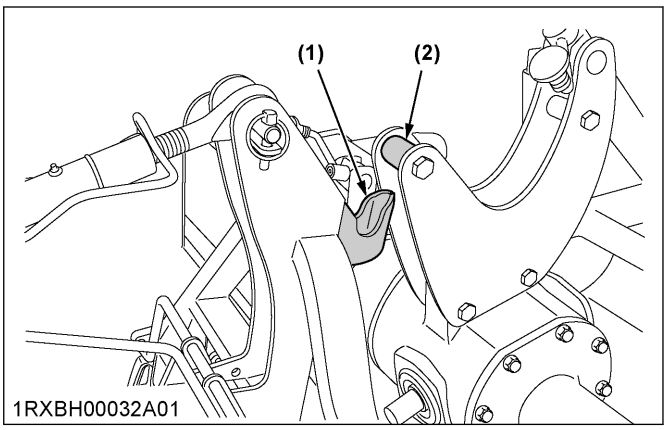
(1) ポジションレバー *(A)* 下げる

[GV（K）60、GV（K）65、GV（K）70]



(1) ポジションレバー *(A)* 下げる

3. オートヒッチフレームのフック部先端が、トップマスト上部ピンのやや下（1 cm～2 cm）にくるように、ポジションレバーを操作しながらゆっくりバックします。
4. ポジションレバーをゆっくり上げ方向に操作し、オートヒッチフレームのフック部がトップマスト上部ピンに確実に引掛ったことを確認してから、ロータリを吊り上げます。

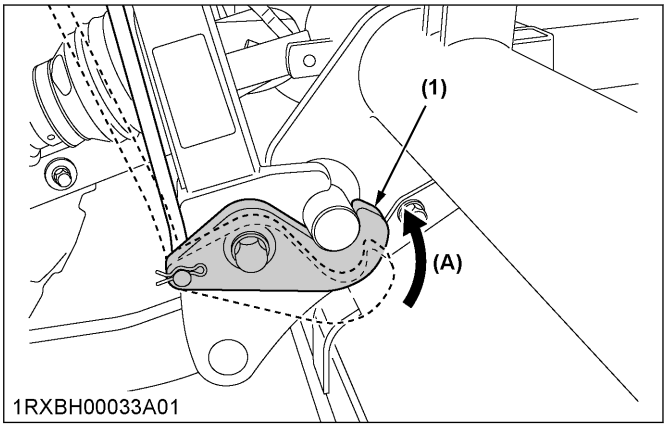


(1) オートヒッチフレームフック部
(2) トップマスト上部ピン

5. オートヒッチフレームでロータリを吊り上げると、ロータリは自動的にオートヒッチフレームのプレートにロックされます。

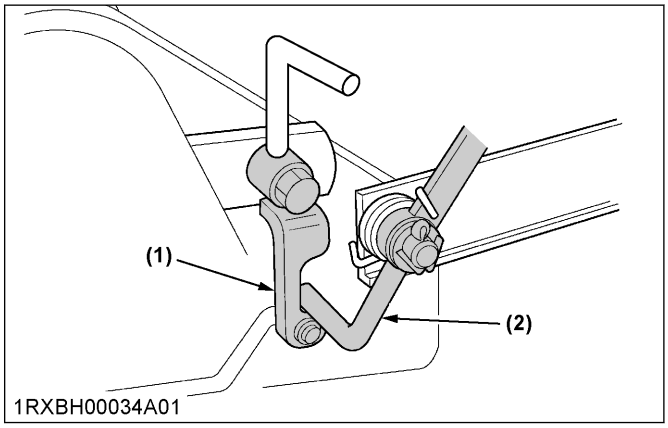
⚠ 警告

- **オートヒッチフレームの左右のプレートが確実にロック状態にあるか、確認してください。ロックしていないと、ロータリが脱落するおそれがあります。**



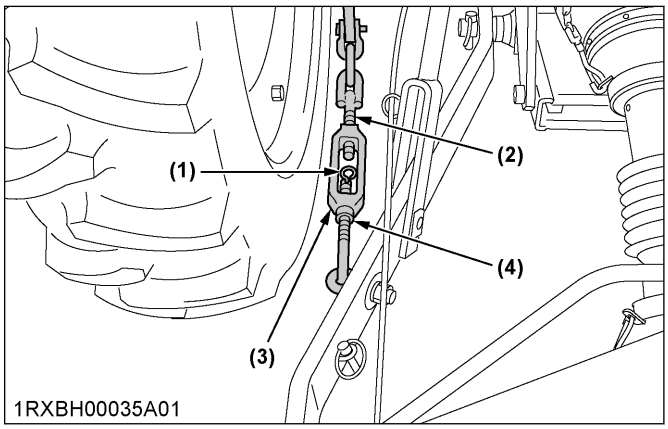
(1) プレート *(A)* ロック

6. 耕深金具のセンサアームがガイドアームに当たっているか確認します。



(1) ガイドアーム
(2) センサーアーム

7. チェックチェーンを調整します。
エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてからユニバーサルジョイントが、上から見て一直線になるように、チェックチェーンを左右均等に保ち（ロータリが横方向に 1 cm～2 cm 動く程度）、ロックナットとスナップピンでロックして、ロータリの横振れを制限してください。



(1) スナップピン
(2) チェックチェーン
(3) ターンバックル
(4) ロックナット

8. ロータリを持ち上げて、エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてから PTO 変速レバーを中立にして、ユニバーサルジョイントが手で軽く回るかを確認します。
9. キャスタを外します。

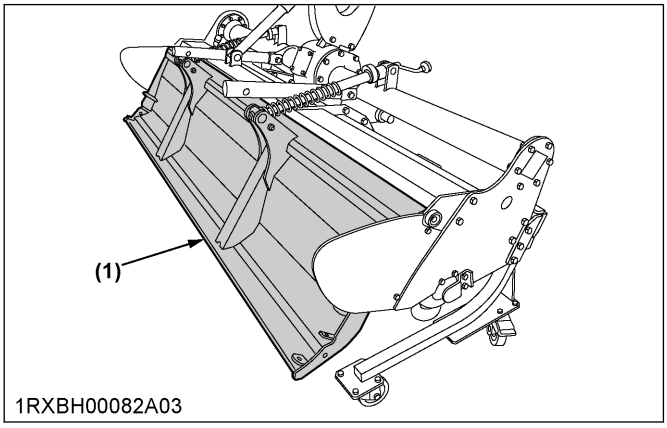
重要：
- **キャスタを反転した状態でロータリ作業、トラクタでの移動を行わないでください。破損のおそれがあります。**

ロータリの取外し方法

⚠ 警告

傷害事故の防止のため、ロータリを取り外すときは次の事を守ってください。
- **PTO を中立にし、平たんな場所で行ってください。**
- **ロータリの着脱時は必ず後 2 輪またはキャスタスタンド、スタンドを取り付けてください。**
- **ロータリに寄りかかったり、乗ったりしないでください。**

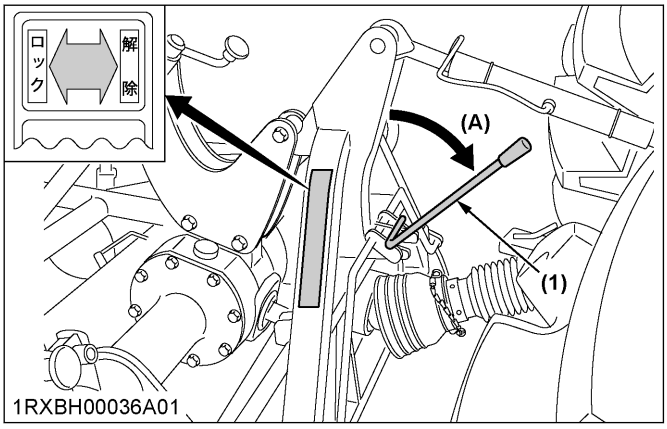
1. ロータリ着脱姿勢を確認します。
（詳細はロータリの着脱姿勢の調整（13 ページ）を参照）
2. ロータリカバー 2 を最下げの位置にセットします。
（詳細はイージーリフタの調整（32 ページ）を参照）



(1) ロータリカバー *2*

重要：
- **ロータリカバー 2 を必ず最下げの位置にセットしてください。**

3. ロータリを地面より上げた状態にして、レバーを**[解除]**の位置にします。



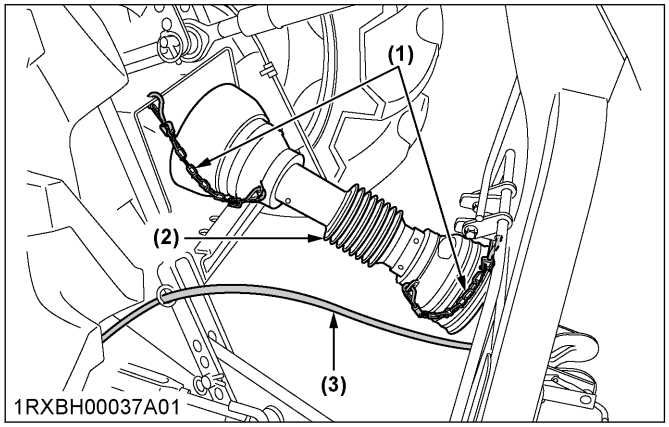
(1) レバー　　*(A)* 解除

4. ロータリをゆっくり下げ、ロータリとオートヒッチフレームを切り離します。

補足：
- **長期間保管するときや洗車後は、錆付き防止のため必ず一度ロータリを取り外し、ユニバーサルジョイント側ジョイントスプライン部と、ロータリ側入力軸に、グリースを塗布してください。**

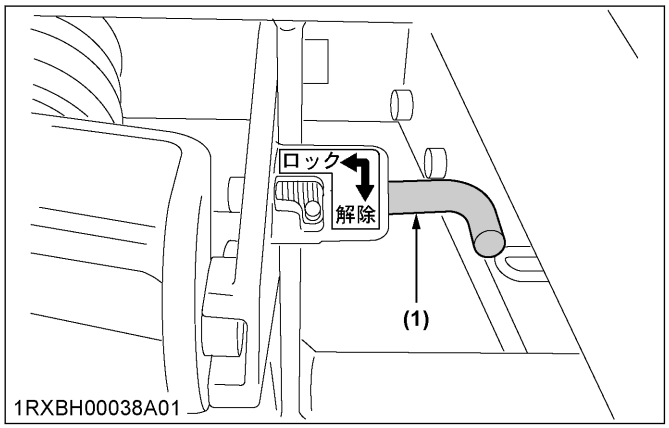
ユニバーサルジョイントの取外し方法

1. 安全カバー回り止め鎖を取り外します。



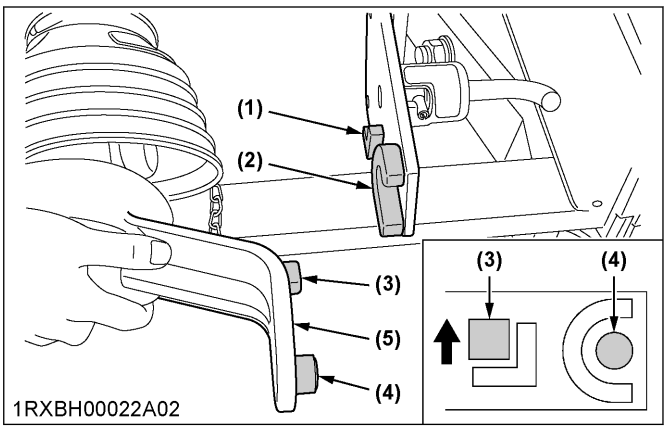
(1) 安全カバー回転止め鎖
(2) ユニバーサルジョイント
(3) 耕深ワイヤ

2. サポート（ジョイント）のレバーを解除位置にします。



(1) サポート（ジョイント）のレバー

3. ユニバーサルジョイントをトラクタの PTO 軸から取り外します。
4. ホルダの左右のピン（角）を上方に持ち上げ、後方に移動し取り外します。



(1) ピン（角）受け部
(2) ピン（丸）受け部
(3) ピン（角）
(4) ピン（丸）
(5) ホルダ

キャスタスタンドの取扱い

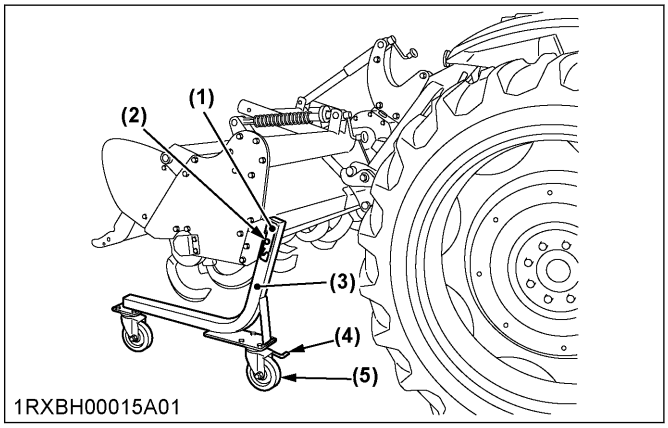
⚠ 警告
- **キャスタスタンドを着脱する際は、ロータリを持ち上げ、トラクタのエンジンを停止し、トラクタの油圧をロック（停止）してロータリの落下防止をしてください。そうしないと、傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
  - **油圧ロック方法**
    油圧ロックレバーを右いっぱいに回し、トラクタの油圧をロックしてください。
- **キャスタスタンドでロータリを移動する際は、平たんな広い場所で、周囲に人がいないことを確認してから行ってください。**
- **キャスタスタンドを装着してロータリを保管する場合は、平たんな場所に置き、左右の前輪のストッパをロック（ON）にしてください。**

重要：
- **キャスタスタンドは、ほ場内で使用、もしくは、ほ場内に放置しないでください。泥の浸入により回動しにくくなることがあります。また、泥が浸入して回動しにくくなった場合は、よく洗浄してグリースを塗布してください。**

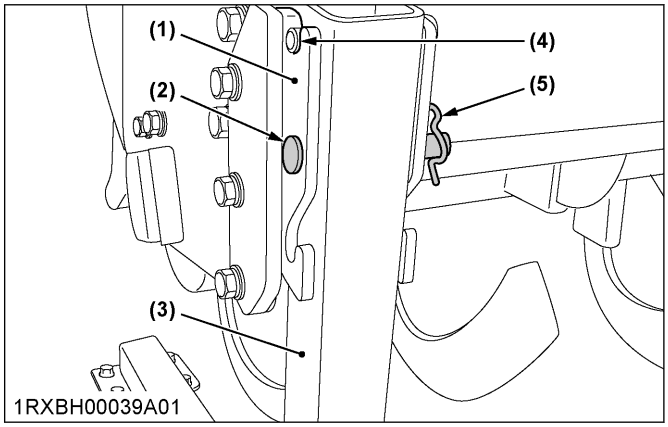
1. キャスタスタンドの取付け方法

1. ロータリを持ち上げ、必ずトラクタの油圧ロックレバーを右いっぱいに回し、油圧をロック（停止）して、ロータリの落下防止をします。

2. ブラケットの上側の溝にキャスタスタンドのピンを引っ掛けて、頭付きピンをロータリの外側から挿し込み、スナップピンで抜け止めをします。



(1) ブラケット
(2) 頭付きピン
(3) キャスタスタンド
(4) ストッパ
(5) 前輪



(1) ブラケット
(2) 頭付きピン
(3) キャスタスタンド
(4) 上側の溝
(5) スナップピン

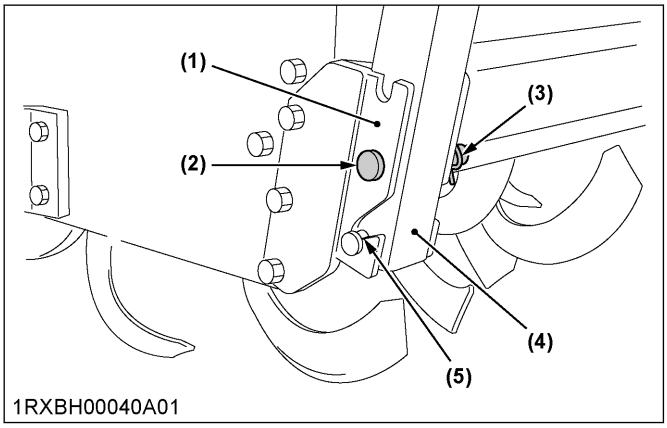
補足：
- **キャスタスタンドは左右同じものです。**

2. キャスタスタンドの取外し方法

1. ロータリを持ち上げ、必ずトラクタの油圧ロックレバーを右いっぱいに回し、油圧をロック（停止）して、ロータリの落下防止をします。
2. 頭付きピンからスナップピンを抜き、キャスタスタンドをブラケットから取り外します。

3. キャスタスタンドの格納

1. キャスタスタンドを上に反転させます。
2. ブラケットの下側の溝にキャスタスタンドのピンを引っ掛けます。
3. 頭付きピンをロータリの外側から挿し込み、スナップピンで固定します。



(1) ブラケット
(2) 頭付きピン
(3) スナップピン
(4) キャスタスタンド
(5) 下側の溝

重要：
- **キャスタスタンドを格納した状態でロータリ作業やトラクタでの移動は行わないでください。キャスタスタンドやトラクタが破損するおそれがあります。**

ロータリの上手な使用方法

⚠ 警告
- **ロータリのユニバーサルジョイントや耕うん爪に接触すると、巻込まれなどの死傷事故のおそれがあります。回転中は近づかないでください。**
- **必ず座席に座って、ロータリ作業を行ってください。作業中、トラクタからの飛降り、飛乗りは重大事故につながります。**
- **ロータリの上に人を乗せたり、運転者以外の人をトラクタに乗せたりしないでください。転落、巻込まれなど、重大事故の原因になります。**
- **ユニバーサルジョイントの安全カバーを外したままで使用しないでください。**
  傷害事故を引き起こすおそれがあります。

適応作業速度

作業目的と耕作地の条件に合わせて、車速と PTO 変速を決めてください。次表は、作業のめやすとして参照してください。

[GV601、GV（K）651、GV（K）701]の変速レバー位置と作業

副変速	車速	PTO 変速			
		1 段	2 段	3 段	4 段
低	0.5	超細土耕うん			
	0.6～0.9	強粘土（荒耕し耕うん、畝立て）			超細土耕うん
	1.0～2.9	水田、畑作（荒耕し、畝立て）		水田、畑作（細土耕うん、畝立て）	
	3.0～4.0	代かき			

[GV（K）60、GV（K）65、GV（K）70]の変速レバー位置と作業

クリープ	副変速	主変速	PTO 変速		
			1 段	2 段	3 段
入	L	6	超細土耕うん		
		7	強粘土（荒耕し耕うん、畝立て）		超細土耕うん
		8			
切		1			
		2	水田、畑作（荒耕し、畝立て）		水田、畑作（細土耕うん、畝立て）
		3			
		4			
		5			
		6	代かき		
		7			

なた爪の取付けおよび取外し方法

⚠ 警告
傷害事故防止のため爪の交換および増締めするときは、次の事を守ってください。
- **トラクタを平たんな広い場所に置いてください。**
- **エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてください。**
- **作業前に必ずロータリの落下防止をしてください。**
  - **落下防止方法**
    油圧ロックレバーを右いっぱいに回し、トラクタの油圧をロックしてください。
- **爪軸の下に木の台などを設置し、より安全性を確保してください。**
- **ボルト、ナットを締め付ける場合は、めがねレンチが確実に入ったか確認してください。**

なた爪の取り付けは、イージーリフタを利用して、カバーを持ち上げロックすると作業がしやすくなります。
その際、必ずセットピンを併用してください。
（イージーリフタの調整（32 ページ）を参照）

重要：
- **なた爪、ボルト、およびナットは純正部品を使用してください。**
  （部品の品番はアタッチメント一覧表（45 ページ）を参照）
- **ロングカット爪、普通爪はマッドレスゴムを損傷するので、絶対に使用しないでください。**

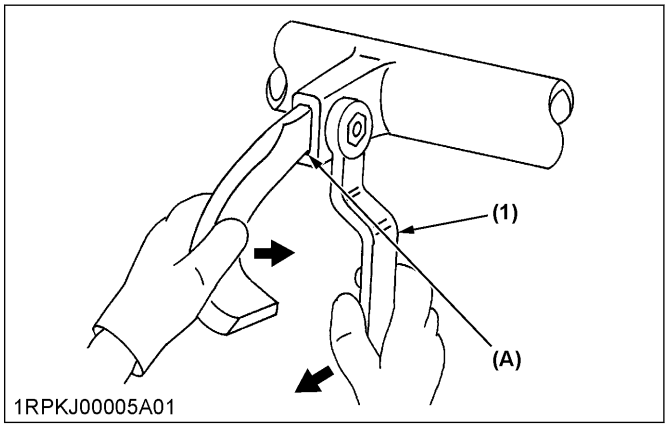
補足：
- **スーパー反転 Z 爪は、標準のスーパー反転爪に対し、約 1.5 倍の寿命があります。**
- **本ロータリはスーパー反転 Z 爪を標準で装備しています。**
  （スーパー反転 Z 爪の品番は、アタッチメント一覧表（45 ページ）を参照）

なた爪は取付け位置によって、取付け方法が次のように異なります。

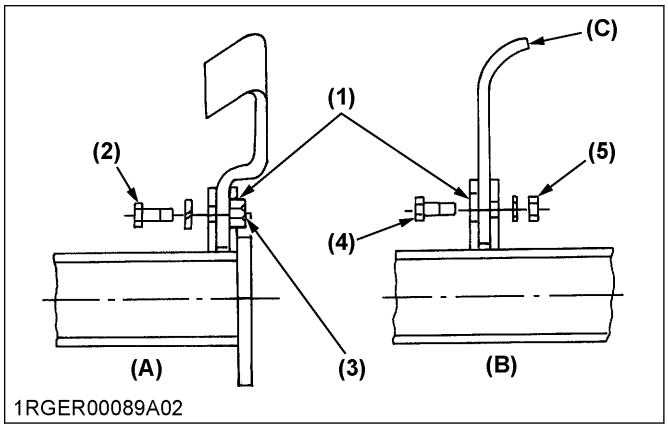
爪軸両端のなた爪の取付け方法
1. 爪軸ブラケットになた爪を挿し込みます。
2. 爪軸ブラケットの六角穴にナットを入れて、既定トルクでボルトを締め付けて、なた爪を取り付けます。
   取付けの際は、なた爪を押さえて、爪軸ブラケットとなた爪のすき間が無いようにしてください。

爪軸両端以外のなた爪の取付け方法
1. 爪軸ブラケットになた爪を挿し込みます。
   このとき、爪の曲がりが爪軸ブラケットの六角穴の反対側を向くようにします。

2. 爪軸ブラケットの六角穴にボルトを入れて、規定トルクでナットを締め付けて、なた爪を取り付けます。
   取付けの際は、なた爪を押さえて、爪軸ブラケットとなた爪のすき間が無いようにしてください。



(1) *19 mm* めがねレンチ
(A) 爪を押さえてすき間を無くす



(1) 爪軸ブラケット六角穴
(2) ボルト（爪軸両端）
(3) ナット（爪軸両端）
(4) ボルト（爪軸両端以外）
(5) ナット（爪軸両端以外）
(A) 爪軸両端の取付け
(B) 爪軸両端以外の取付け
(C) 爪の曲がりが六角穴の反対側を向く

締付けトルク	(2) ボルト（爪軸両端）	150 N·m～160 N·m（15.3 kgf·m～16.3 kgf·m）
	(5) ナット（爪軸両端以外）	

補足：
- **爪軸両端に取り付ける増幅爪は大きい爪ブラケットに取り付けてください。**
  増幅爪は左右に 1 本ずつ取り付けます。
- **ボルトやナットはめがねレンチを使用して締め付けてください。このとき、めがねレンチをナットやボルトの頭に確実に挿し込み、外れないように注意してください。**
- **爪を抜いて耕うん作業をすると、爪のバランスが狂い、振動や騒音が出ますので、ご注意ください。**

なた爪の取外し方法
取付け方法の逆の手順で取り外してください。

1. 草巻付き防止ワイヤ

⚠ 警告
傷害事故の防止のため、草巻付き防止ワイヤの取付け、取外し、点検、調整を行う場合、次の事を守ってください。
- **トラクタを平たんな広い場所に置いてください。**
- **エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてください。**
- **ロータリが落下しないよう、作業前に必ずトラクタの油圧をロック（停止）してください。**
  - **油圧ロック方法**
    油圧ロックレバーを右いっぱいに回し、トラクタの油圧をロックしてください。
- **爪軸の下に木の台などの爪軸を支えられるものを設置し、より安全性を確保してください。**

草巻付き防止ワイヤは爪軸への草の巻き付きを防止し、振動を抑え、耕深を安定させます。

重要：
- **石の多いほ場では、草巻付き防止ワイヤの使用を控えてください。**
- **ワイヤが損傷した場合は、速やかにワイヤを新品に交換してください。ただし、被覆している樹脂カバーが磨耗もしくは折損しても使用は可能です。**
- **なた爪、ボルト、およびナットは純正部品を使用してください。**
- **草巻付き防止ワイヤの装着方法を間違うと、早期にワイヤを損傷するおそれがあります。**
- **カマなどでワイヤを傷つけないでください。**

1.1 草巻付き防止ワイヤの交換

草巻付き防止ワイヤを交換する際は各草巻付き防止ワイヤの購入部品と組付け方法を参照し、ロータリ型式ごとに適正な草巻付き防止ワイヤを購入し正しく組み付けてください。

1.1.1 草巻付き防止ワイヤの購入部品と取付け方法［RD205RC］

草巻付き防止ワイヤを交換する際は、次表、次図を参照して必要な草巻付き防止ワイヤを購入してください。

購入部品

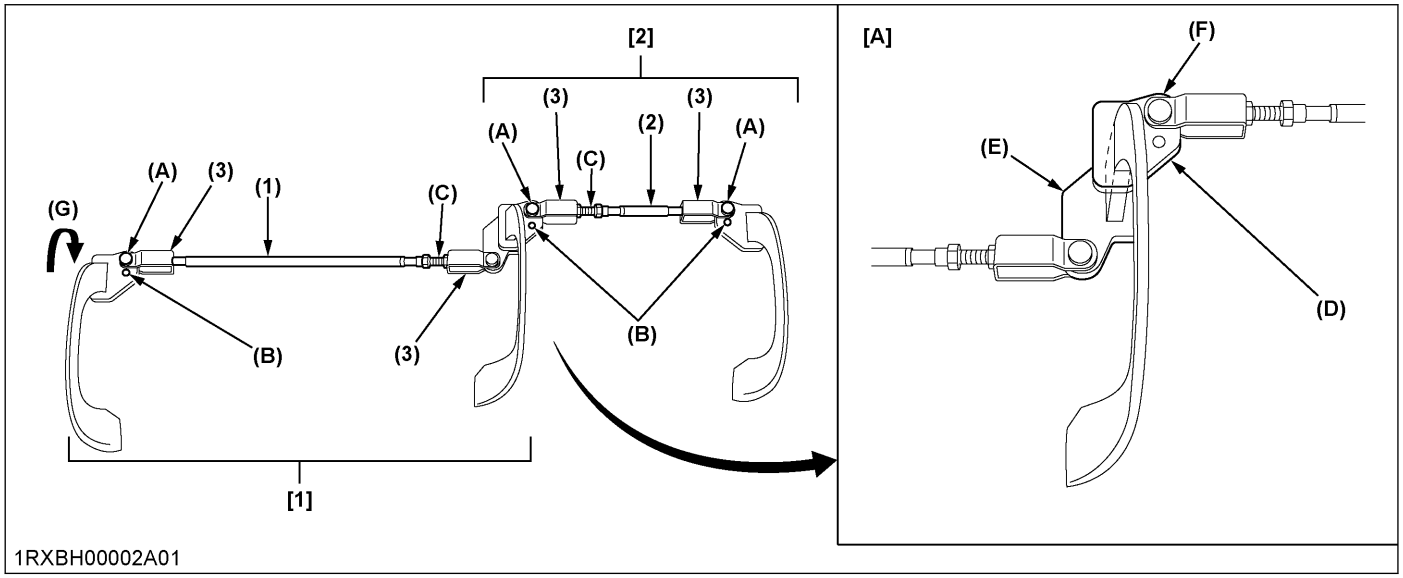
ワイヤ取付け位置	ワイヤ種類	品名	品番
51AZ 号爪側	ワイヤ A	ワイヤ、アッシ（20、A、L）	95350000280
	ワイヤ B	ワイヤ ASSY	99660026010
51CZ 号爪側	ワイヤ C	ワイヤ	99660026020
	ワイヤ D	ワイヤ、アッシ（20、C2）	95350000290

取付け手順

1. 草巻付き防止ワイヤを爪軸のブラケットに取り付けます。
   このとき、ステーの向きと上下位置が図のとおりとなっているか確認してください。
   （詳細は、草巻付き防止ワイヤの取付けおよび取外し方法（24 ページ）を参照）

   補足：
   - **草巻付き防止ワイヤが取り付けにくいときは、ネジ部を 2 回転～3 回転ゆるめてから取り付けてください。**
2. 草巻付き防止ワイヤのたわみ量を調整します。
   （詳細は、ワイヤの調整方法（26 ページ）を参照）

51AZ 号爪側に取り付ける草巻付き防止ワイヤ

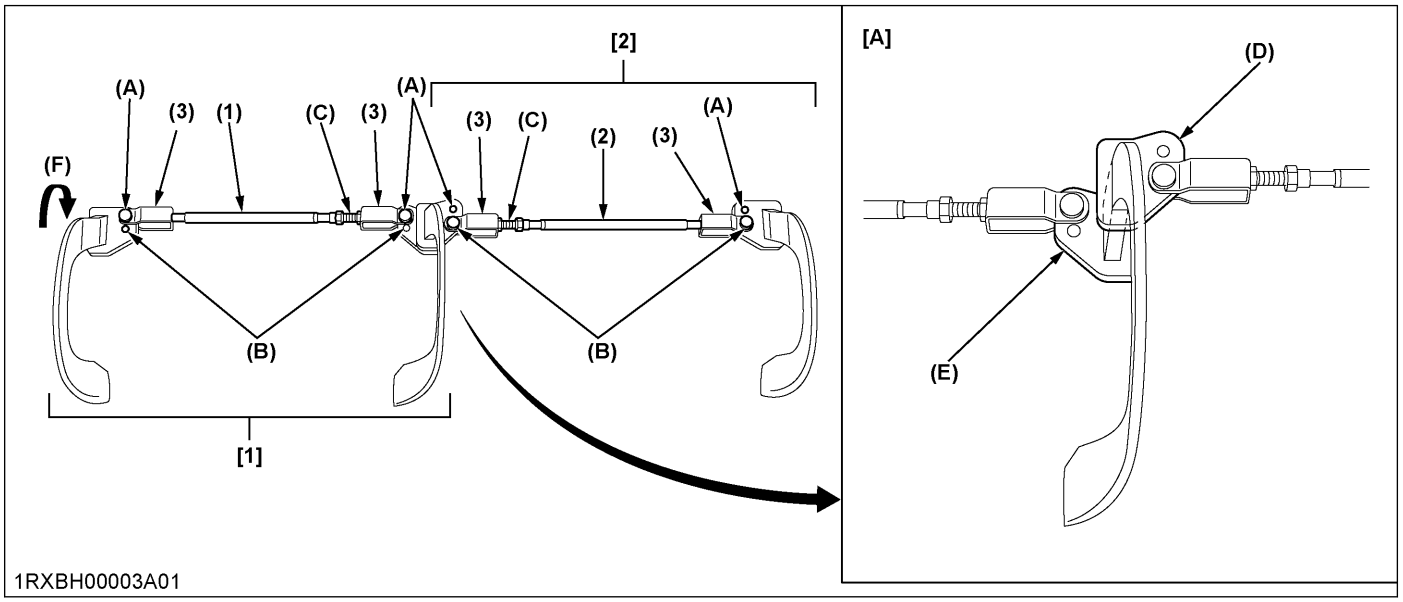


1RXBH00002A01

(1) ワイヤ *A*
(2) ワイヤ *B*
(3) *U* 金具
[1] ワイヤ、アッシ（*20*、*A*、*L*）
[2] ワイヤ *ASSY*
(A) 穴位置 *A*
(B) 穴位置 *B*
(C) ワイヤネジ側
(D) 重ねる上側
(E) 重ねる下側
(F) ステーのふくらみが回転方向
(G) ロータリ回転方向
[A] ステーの上下位置

ワイヤ種類		ワイヤ長さ（参考値）	ワイヤ本数	U 金具取付け穴位置	
				ワイヤネジ側	ワイヤネジ反対側
51AZ 号爪側	ワイヤ A	1175 mm	1 本	–	穴位置 A
	ワイヤ B	569 mm	1 本	穴位置 A	穴位置 A

51CZ 号爪側に取り付ける草巻付き防止ワイヤ



(1) ワイヤ *C*
(2) ワイヤ *D*
(3) *U* 金具
[1] ワイヤ
[2] ワイヤ、アッシ（*20*、*C2*）
(A) 穴位置 *A*
(B) 穴位置 *B*
(C) ワイヤネジ側
(D) 重ねる上側
(E) 重ねる下側
(F) ロータリ回転方向
[A] ステーの上下位置

ワイヤ種類		ワイヤ長さ（参考値）	ワイヤ本数	U 金具取付け穴位置	
				ワイヤネジ側	ワイヤネジ反対側
51CZ 号爪側	ワイヤ C	874 mm	1 本	穴位置 A	穴位置 A
	ワイヤ D	874 mm	1 本	穴位置 B	穴位置 B

1.1.2 草巻付き防止ワイヤの購入部品と取付け方法［RD225RC］

草巻付き防止ワイヤを交換する際は、次表、次図を参照して必要な草巻付き防止ワイヤを購入してください。

購入部品

ワイヤ取付け位置	ワイヤ種類	品名	品番
51AZ 号爪側	ワイヤ A	ワイヤ、アッシ（22、A、L）	95350000300
	ワイヤ B	ワイヤ ASSY	K7E72255520
51CZ 号爪側	ワイヤ C	ワイヤ ASSY	K7E72255610
	ワイヤ D	ワイヤ、アッシ（22、C2）	95350000310

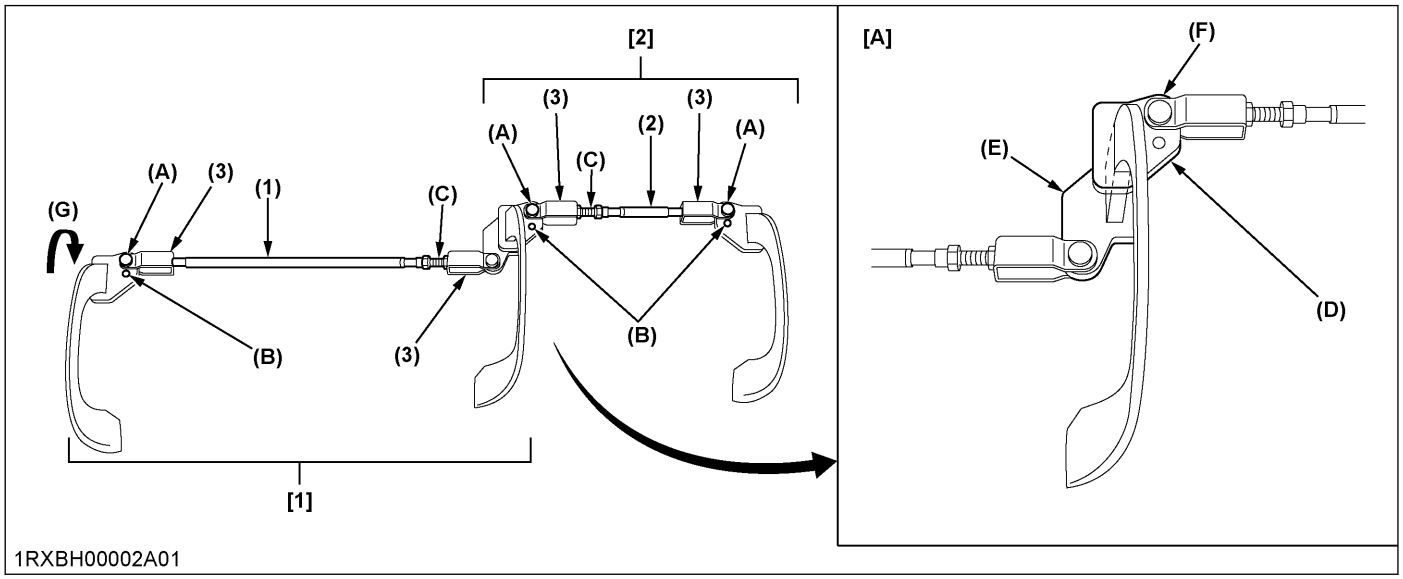
取付け手順

1. 草巻付き防止ワイヤを爪軸のブラケットに取り付けます。
   このとき、ステーの向きと上下位置が図のとおりとなっているか確認してください。
   （詳細は、草巻付き防止ワイヤの取付けおよび取外し方法（24 ページ）を参照）

   補足：
   - **草巻付き防止ワイヤが取り付けにくいときは、ネジ部を 2 回転～3 回転ゆるめてから取り付けてください。**

2. 草巻付き防止ワイヤのたわみ量を調整します。
   （詳細は、ワイヤの調整方法（26 ページ）を参照）

51AZ 号爪側に取り付ける草巻付き防止ワイヤ

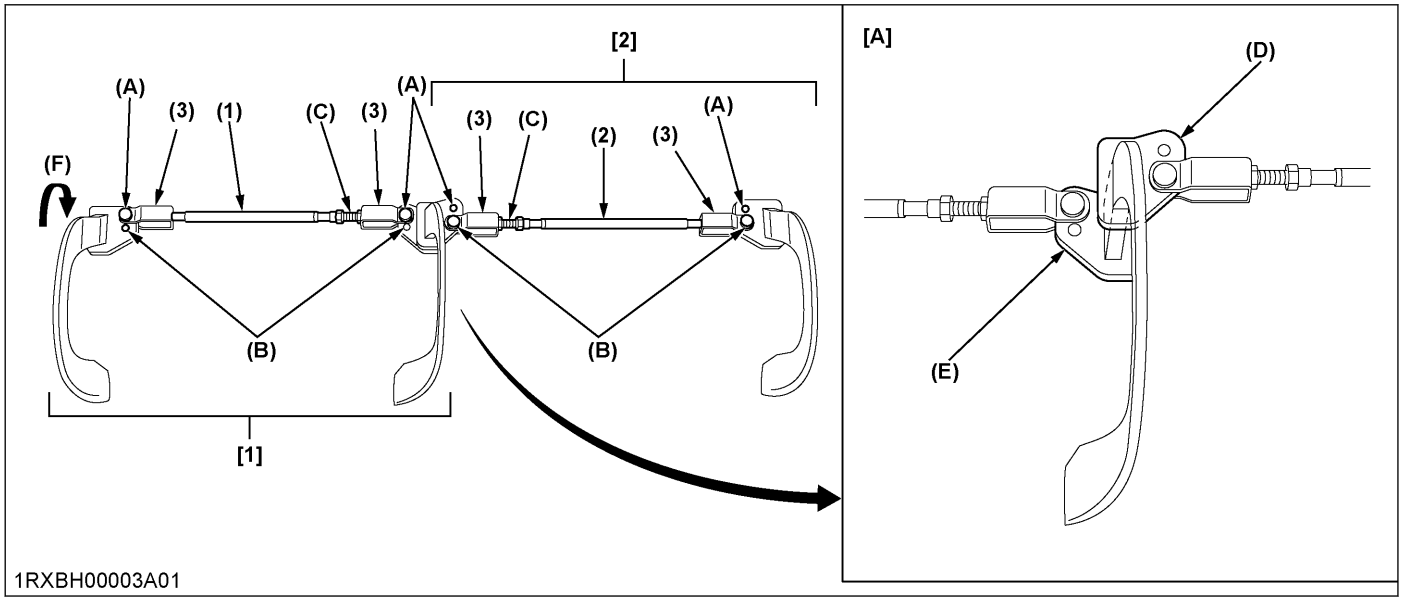


1RXBH00002A01

(1) ワイヤ *A*
(2) ワイヤ *B*
(3) *U* 金具
[1] ワイヤ、アッシ（*22*、*A*、*L*）
[2] ワイヤ *ASSY*
(A) 穴位置 *A*
(B) 穴位置 *B*
(C) ワイヤネジ側
(D) 重ねる上側
(E) 重ねる下側
(F) ステーのふくらみが回転方向
(G) ロータリ回転方向
[A] ステーの上下位置

ワイヤ種類		ワイヤ長さ（参考値）	ワイヤ本数	U 金具取付け穴位置	
				ワイヤネジ側	ワイヤネジ反対側
51AZ 号爪側	ワイヤ A	1306 mm	1 本	–	穴位置 A
	ワイヤ B	638 mm	1 本	穴位置 A	穴位置 A

51CZ 号爪側に取り付ける草巻付き防止ワイヤ



1RXBH00003A01

(1) ワイヤ *C*
(2) ワイヤ *D*
(3) *U* 金具
[1] ワイヤ *ASSY*
[2] ワイヤ、アッシ（*22*、*C2*）
(A) 穴位置 *A*
(B) 穴位置 *B*
(C) ワイヤネジ側
(D) 重ねる上側
(E) 重ねる下側
(F) ロータリ回転方向
[A] ステーの上下位置

ワイヤ種類		ワイヤ長さ（参考値）	ワイヤ本数	U 金具取付け穴位置	
				ワイヤネジ側	ワイヤネジ反対側
51CZ 号爪側	ワイヤ C	974 mm	1 本	穴位置 A	穴位置 A
	ワイヤ D	974 mm	1 本	穴位置 B	穴位置 B

1.1.3 草巻付き防止ワイヤの購入部品と取付け方法［RD245RC］

草巻付き防止ワイヤを交換する際は、次表、次図を参照して必要な草巻付き防止ワイヤを購入してください。

購入部品

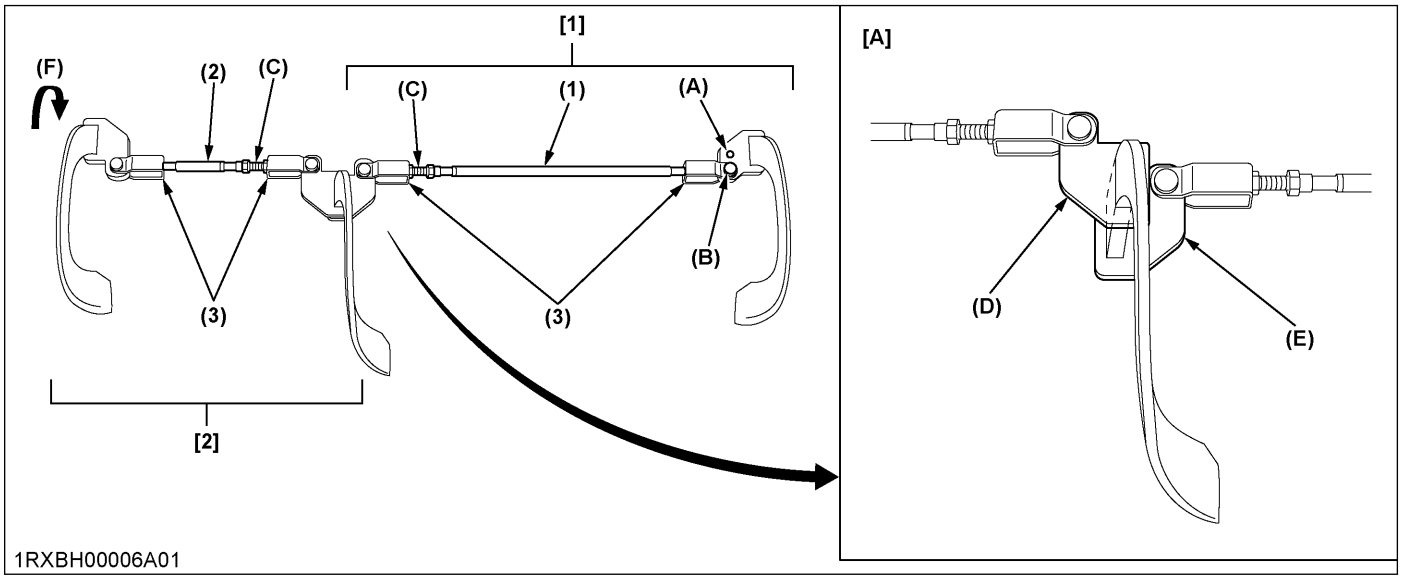
ワイヤ取付け位置	ワイヤ種類	品名	品番
51AZ 号爪側	ワイヤ A	ワイヤ、アッシ（24、A、L）	95350000320
	ワイヤ B	ワイヤ、アッシ（24、A、S）	95350000330
51CZ 号爪側	ワイヤ C	ワイヤ、アッシ（24、C、L）	95350000340
	ワイヤ D	ワイヤ、アッシ（24、C、S）	95350000350

取付け手順

1. 草巻付き防止ワイヤを爪軸のブラケットに取り付けます。
   このとき、ステーの向きと上下位置が図のとおりとなっているか確認してください。
   （詳細は、草巻付き防止ワイヤの取付けおよび取外し方法（24 ページ）を参照）

   補足：
   - **草巻付き防止ワイヤが取り付けにくいときは、ネジ部を 2 回転～3 回転ゆるめてから取り付けてください。**
2. 草巻付き防止ワイヤのたわみ量を調整します。
   （詳細は、ワイヤの調整方法（26 ページ）を参照）

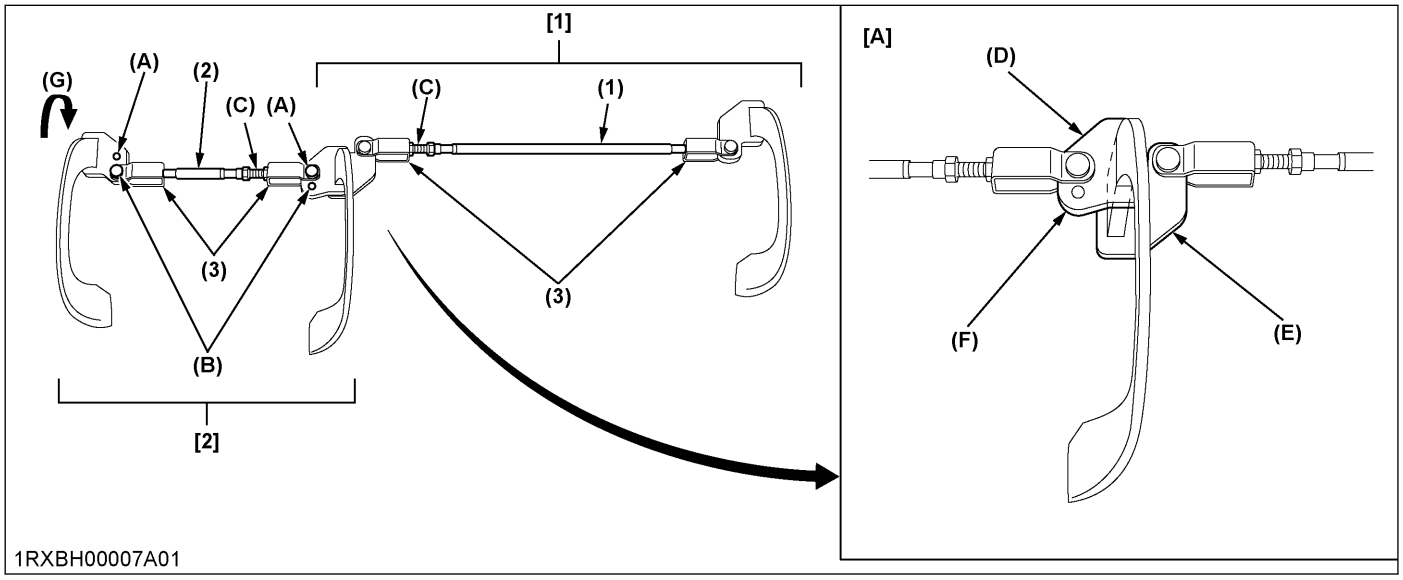
51AZ 号爪側に取り付ける草巻付き防止ワイヤ



(1) ワイヤ *A*
(2) ワイヤ *B*
(3) *U* 金具
[1] ワイヤ、アッシ（*24*、*A*、*L*）
[2] ワイヤ、アッシ（*24*、*A*、*S*）
(A) 穴位置 *A*
(B) 穴位置 *B*
(C) ワイヤネジ側
(D) 重ねる上側
(E) 重ねる下側
(F) ロータリ回転方向
[A] ステーの上下位置

ワイヤ種類		ワイヤ長さ（参考値）	ワイヤ本数	U 金具取付け穴位置	
				ワイヤネジ側	ワイヤネジ反対側
51AZ 号爪側	ワイヤ A	1305 mm	1 本	–	穴位置 B
	ワイヤ B	865 mm	1 本	–	–

51CZ 号爪側に取り付ける草巻付き防止ワイヤ



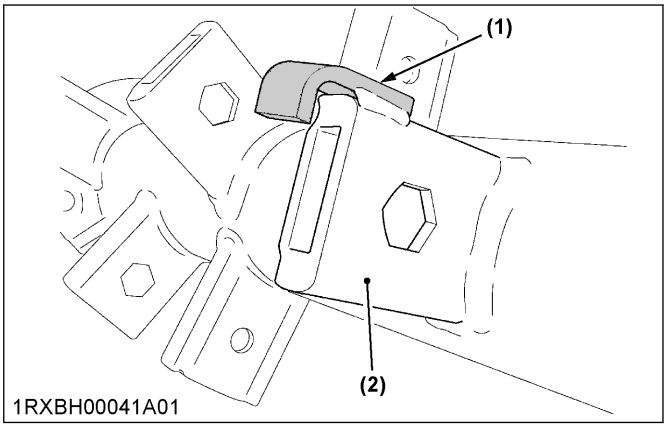
(1) ワイヤ *C*
(2) ワイヤ *D*
(3) *U* 金具
[1] ワイヤ、アッシ（*24*、*C*、*L*）
[2] ワイヤ、アッシ（*24*、*C*、*S*）
(A) 穴位置 *A*
(B) 穴位置 *B*
(C) ワイヤネジ側
(D) 重ねる上側
(E) 重ねる下側
(F) ステーのふくらみが回転方向と逆向き
(G) ロータリ回転方向
[A] ステーの上下位置

ワイヤ種類		ワイヤ長さ（参考値）	ワイヤ本数	U 金具取付け穴位置	
				ワイヤネジ側	ワイヤネジ反対側
51CZ 号爪側	ワイヤ C	1470 mm	1 本	–	–
	ワイヤ D	690 mm	1 本	穴位置 A	穴位置 B

1.2 草巻付き防止ワイヤの取付けおよび取外し方法

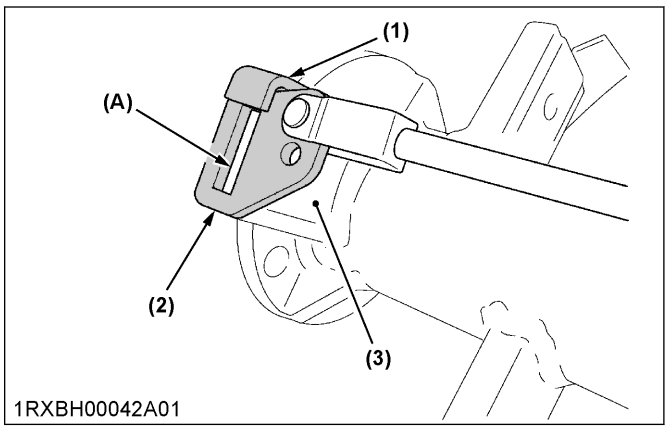
本項では草巻付き防止ワイヤを交換するときの基本的な手順を説明しています。草巻付き防止ワイヤの種類と取付け条件はロータリの型式ごとに異なります。必ず指定の草巻付き防止ワイヤを指定の取付け条件で組み付けてください。
（詳細は、草巻付き防止ワイヤの交換（19 ページ）を参照）

51AZ 号爪用ブラケットの場合
ステーを取り付ける 51AZ 号爪用ブラケットには、図のようなフックがあります。



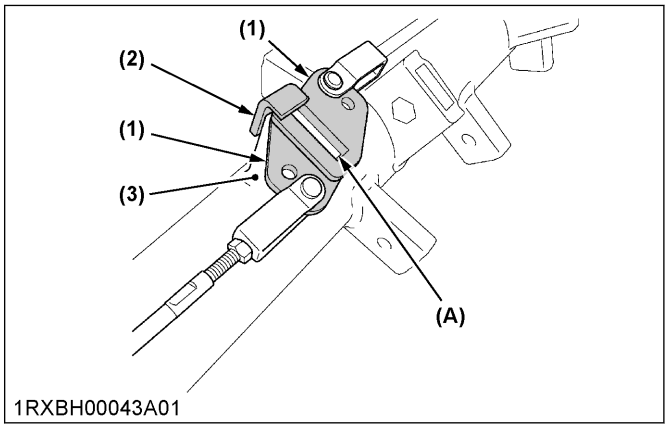
(1) フック
(2) *51AZ* 号爪用ブラケット

1. 爪軸の両端部は、ブラケットとフックの隙間にステーを挿し込み、ステーの四角穴とブラケットの四角穴を合わせます。



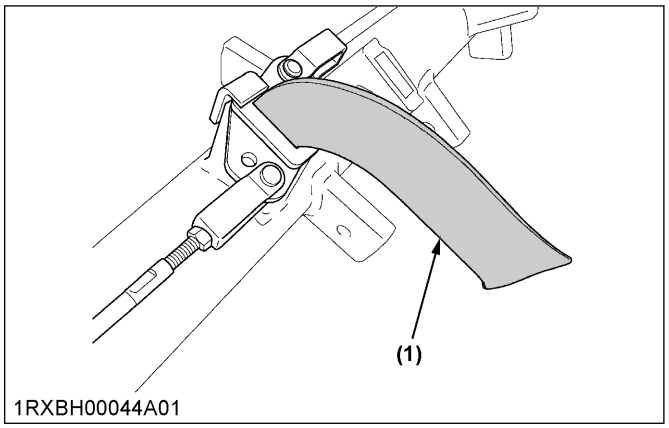
(1) フック
(2) ステー
(3) ブラケット
(A) ステーとブラケットの四角穴を合わせる

2. 爪軸の両端部以外は、ステーを 2 枚重ねてブラケットとフックの隙間にステーを挿し込み、ステーの四角穴とブラケットの四角穴を合わせます。



(1) ステー
(2) フック
(3) ブラケット
(A) *2* 枚のステーを重ね、ステーとブラケットの四角穴を合わせる

3. 合わせた四角穴に 51AZ 号爪を挿し込み、なた爪を取り付けます。
（なた爪の取付け方法の詳細は、なた爪の取付けおよび取外し方法（18 ページ）を参照）

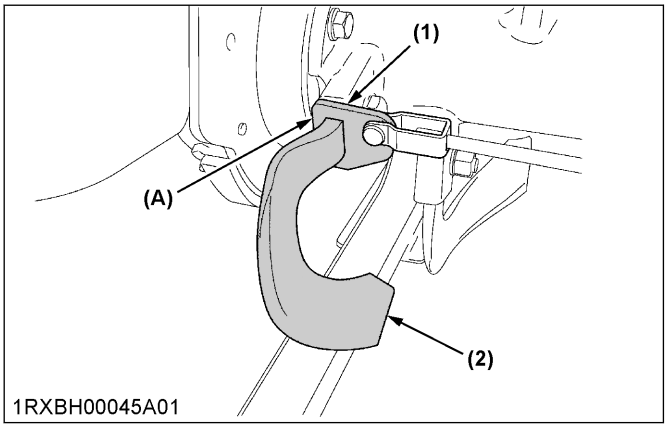


(1) *51AZ* 号爪

51CZ 号増幅爪用ブラケットの場合

爪軸両端の 51CZ 号増幅爪用ブラケットには、51AZ 号爪用ブラケットのようなフックはありません。

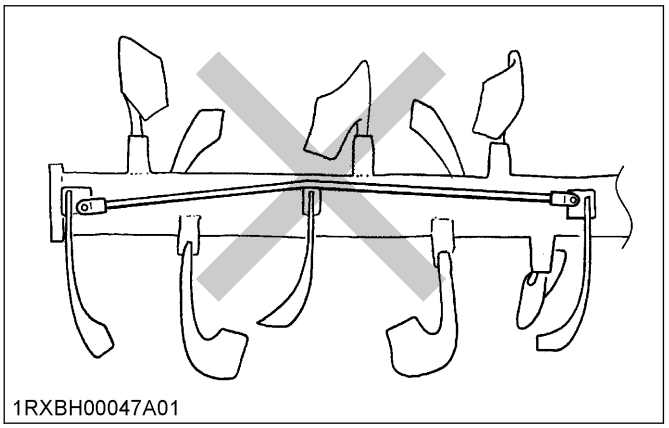
1. ステーの四角穴とブラケットの四角穴を合わせ、51CZ 号増幅爪を挿し込み、なた爪を取り付けます。
（なた爪の取付け方法の詳細は、なた爪の取付けおよび取外し方法（18 ページ）を参照）

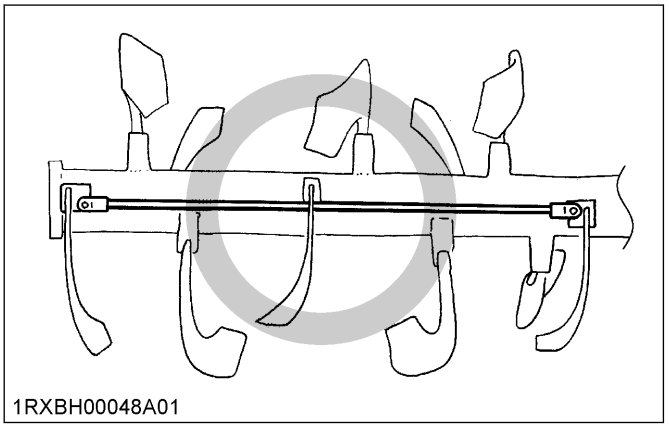


(1) ステー
(2) *51CZ* 号増幅爪
(A) ステーとブラケットの四角穴を合わせ爪を挿し込む

重要：

- **ワイヤが爪やブラケットに強く干渉していないか確認してください。**
上側の図のようにワイヤがブラケットに強く干渉したまま取り付けますと、早期にワイヤを損傷するおそれがあります。





ブラケットからステーを取り外す場合
取付け方法の逆の手順で取り外してください。

1.3 ワイヤの調整方法

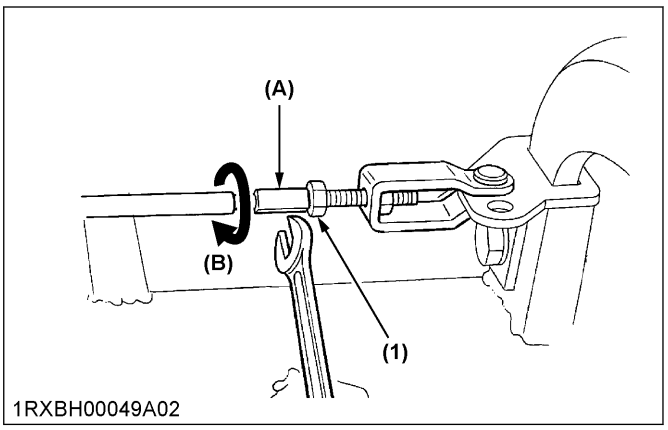
次の場合、ワイヤの長さを調整します。
- 耕うん前の確認でワイヤのたわみ量が適正でない場合
- 草巻付き防止ワイヤを取り付ける際に、ワイヤの長さ調整が必要な場合

重要：
- **耕うん前にワイヤがゆるんでいないか確認してください。ゆるんでいる場合は、ワイヤを調整してください。ゆるんだまま使用すると、草巻付き防止ワイヤの効果が少なくなり、ワイヤを損傷するおそれがあります。**
- **ワイヤを調整するときは、ネジ部に付着した土などを洗い流し、ネジ部に注油してから行ってください。**

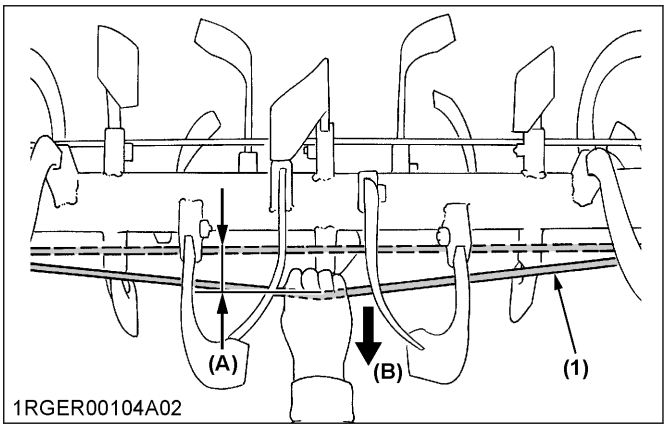
1. ロックナットを四角かしめ部付近までゆるめます。
2. ネジの四角かしめ部を付属のスパナ（8-12）の M8 側で締め込み、ワイヤの張りを調整します。
   このとき、各ワイヤの中央付近で、ワイヤを爪軸に対して直角方向に約 98 N（10 kgf）の力で引いたとき、ワイヤが元の位置から既定の幅だけたわむように調整します。

⚠ 警告
- **ワイヤを引く際は、ワイヤに体重を掛けて引かないでください。**
  傷害事故につながるおそれがあります。

重要：
- **ワイヤの調整はロックナットをゆるめてから、必ず付属のスパナ（8-12）で行ってください。ロックした状態の増締めや他の工具を使用すると、破損するおそれがあります。**
- **ワイヤの調整は必ずたわみ量を確認しながら行ってください。**
  適正なたわみ量で使用しないと、ワイヤの寿命が短くなります。



(1) ロックナット
(A) 四角かしめ部
(B) 締め込む



(1) ワイヤ
(A) たわみ調節量
(B) 爪軸に対し直角方向に約 *98 N*（*10 kgf*）の力で引く

［RD205RC、RD225RC］のたわみ調整量

ワイヤ種類	たわみ調整量
ワイヤ A	10 mm
ワイヤ B	5 mm
ワイヤ C	10 mm
ワイヤ D	10 mm

（ワイヤ種類の詳細は、草巻付き防止ワイヤの購入部品と取付け方法［**RD205RC**］（19 ページ）、草巻付き防止ワイヤの購入部品と取付け方法［**RD225RC**］（21 ページ）を参照）

［RD245RC］のたわみ調整量

ワイヤ種類	たわみ調整量
ワイヤ A	10 mm
ワイヤ B	10 mm
ワイヤ C	10 mm
ワイヤ D	5 mm

（ワイヤ種類の詳細は、草巻付き防止ワイヤの購入部品と取付け方法［**RD245RC**］（23 ページ）を参照）

3. ワイヤのたわみ量を調整後、既定トルクでロックナット固定します。
   ロックナットは付属のスパナ（8-12）のM 12 側で締め込んでください。

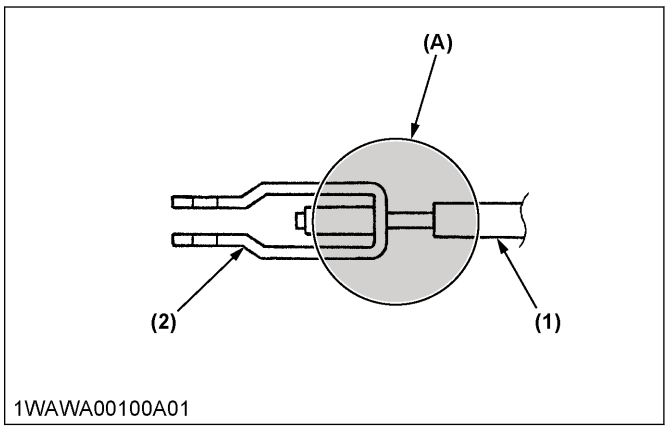
重要：
- **ロックナットは次表の締付けトルクの値を超えないようにしてください。**

締付けトルク	ロックナット	14.7 N·m（150 kgf·cm）*1

***1 参考値**

補足：
- **ワイヤが取り付けにくいときは、ネジ部を 2 回転～3 回転ゆるめてから取り付けてください。**
- **ワイヤを調整するとき、ある程度ワイヤが張ってくると、スパナで締めてもワイヤのネジがゆるむ（戻る）ことがあります。そのときは、ロックナットでロックしながら調整してください。**

重要：
- **ロータリ使用後、特に長時間使用しないときは図示箇所を洗浄後、注油してください。**

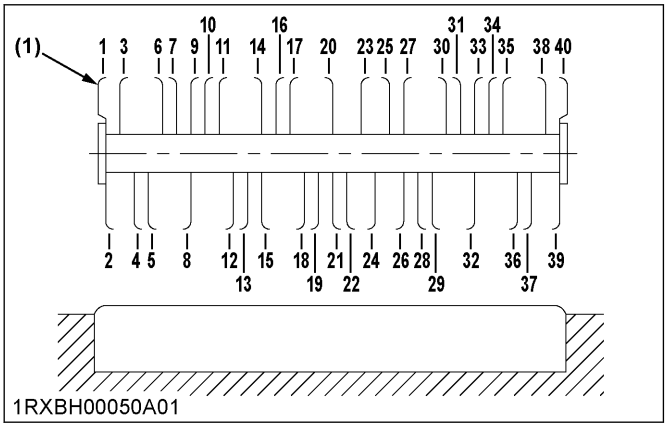


(1) ワイヤ　*(A)* 注油
(2) U 金具

2. 均平耕法（耕起、細土、代かき、および整地作業）

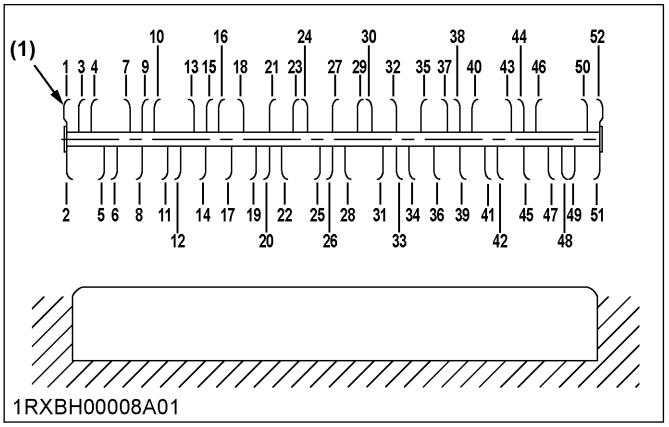
爪の取付けは次の図を参照し、爪ブラケット六角穴の反対側に爪の曲がりがくるよう、取り付けてください。

［RD205RC、RD225RC］



(1) 耕うん爪

［RD245RC］

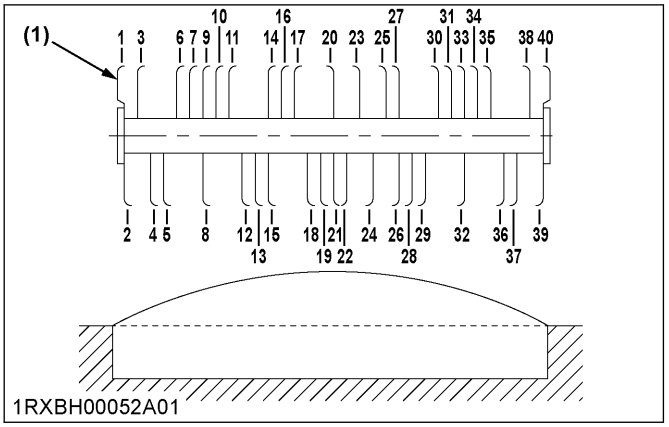


(1) 耕うん爪

3. 1 つ盛り耕法（乾土効果を必要とする水田の耕起および細土作業）

爪軸中央を基準とし、爪はすべて内向きになるように次図に従って取り付けてください。
ただし、［**RD245RC**］は盛り耕ができません。
耕うん時、ロータリカバー 2 を上げて、セットピンで保持し、カバーが耕うんした土壌を整地しないようにします。

［RD205RC、RD225RC］

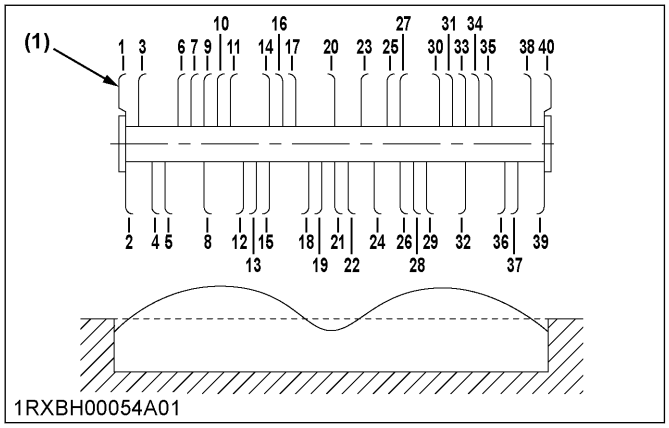


(1) 耕うん爪

4. 2 つ盛り耕法（乾土効果を必要とする水田の耕起および細土作業）

爪軸中央と両端の間でそれぞれ爪が内向きになるように次図に従って取り付けてください。
ただし、［**RD245RC**］は盛り耕ができません。
耕うん時、ロータリカバー 2 を上げて、セットピンで保持し、カバーが耕うんした土壌を整地しないようにします。

［RD205RC、RD225RC］



(1) 耕うん爪

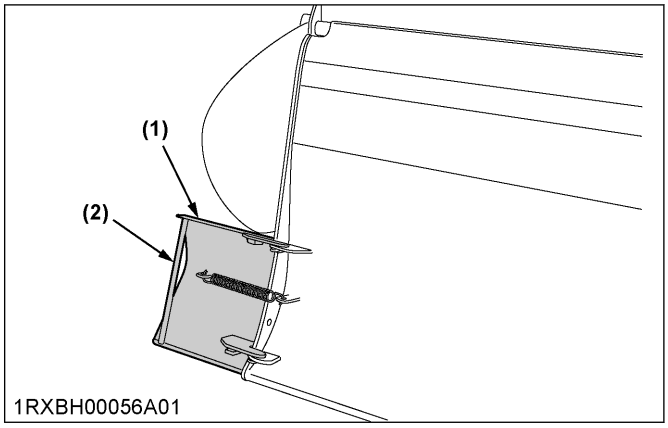
ロータリの調整

⚠ 警告
ロータリ各部の調整、着脱、または交換をするときは、傷害事故を引き起こすおそれがありますので、次の事を守ってください。
- **トラクタを平たんな広い場所に置いてください。**
- **エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてください。**
- **ロータリが落下しないよう、作業前に必ずトラクタの油圧をロック（停止）してください。**
  - **油圧ロック方法**
    油圧ロックレバーを右いっぱいに回し、トラクタの油圧をロックしてください。
- **爪軸の下に木の台などを置き、より安全性を確保してください。**

延長カバー（オプション）の使用方法

⚠ 警告
- **延長カバーの開閉時、指や手を挟まれないように注意してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。**

延長カバーを使用すると耕うん跡がきれいに仕上がります。延長カバーの開閉は先端のにぎり部で行ってください。



(1) 延長カバー
(2) にぎり部

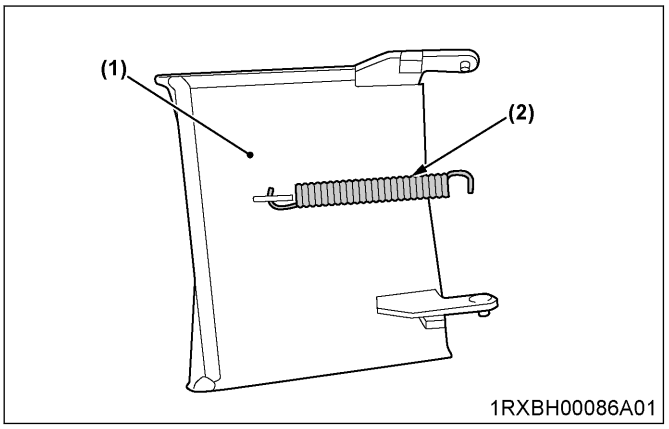
1. 延長カバーの取付け方法

⚠ 警告
傷害事故防止の為、延長カバーの取付けをする場合は次のことを守ってください。
- **延長カバーの取付けはロータリを平たんな広い場所に置いて行ってください。**
- **キャスタスタンド仕様の場合はキャスタスタンドのブレーキを掛けてください。**
- **トラクタにロータリを装着して延長カバーの取付けを行う際は、トラクタを平たんな広い場所に置きブレーキを掛け、ロータリを接地した状態で作業してください。**

補足：
- **延長カバーは、オプションにて追加購入することができます。**

品名	品番	個数
カバー（エンチョウ）(R)	95350000240	1
カバー（エンチョウ）(L)	95350000250	1
ヒッパリスプリング	95340014570	2
スナップピン	95340001210	4

1. 延長カバーにスプリングをつけます。

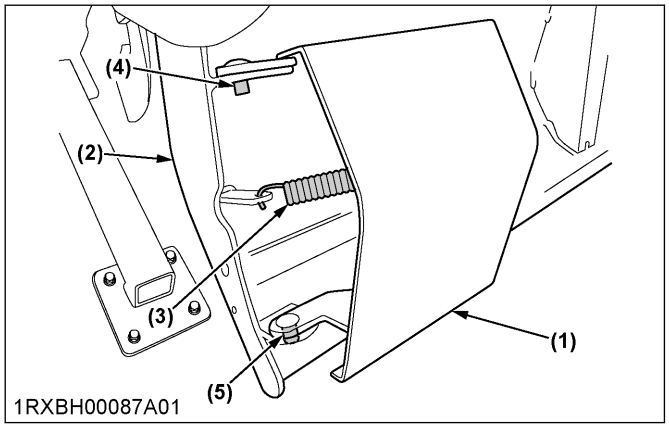


(1) 延長カバー
(2) スプリング

2. 延長カバーの凹み側をロータリカバー 2 に向けた状態にして、スプリングをロータリカバー 2 につけます。

3. 延長カバーのピン部をロータリカバー 2 に上から挿し込みます。
その際、ピン部は上部、下部の順番でロータリカバー 2 に挿し込みます。

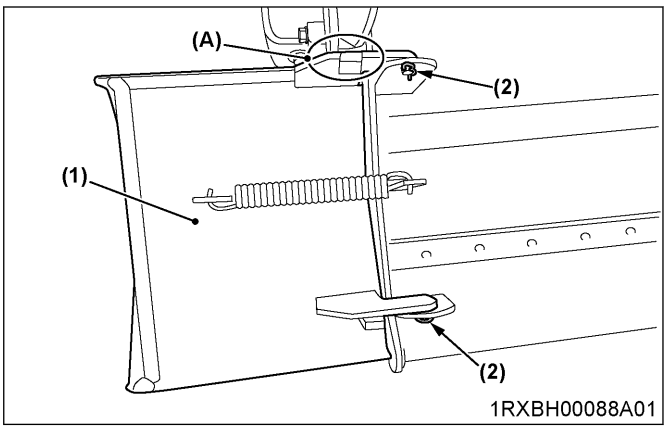
補足：
- **延長カバーは取付けの向きがあります。延長カバーの凹みをロータリカバー 2 に向けたとき、延長カバーのピン部が下を向く状態が正しい向きです。**
正しい向きでロータリカバー 2 に取り付けてください。
誤った向きで取り付けるとじゅうぶんな性能が得られません。



(1) 延長カバー
(2) ロータリカバー *2*
(3) スプリング
(4) 延長カバーピン上部
(5) 延長カバーピン下部

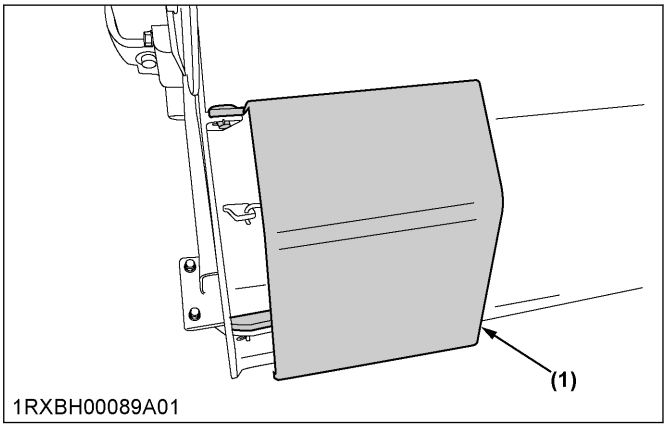
4. 延長カバーを開き、延長カバーのピン部にスナップピンを取り付けます。
この時、スナップピンの先端をロータリカバー 2 側に向けて取り付けてください。

⚠ 注意
- **延長カバーを開く際、ピン部が外れないように延長カバーを上から手で押さえながら開いてください。延長カバーが勢いよく外れ、怪我を負うおそれがあります。**



(1) 延長カバー
(2) スナップピン
(A) カバーを開く際は上から押さえる

5. 延長カバーを畳みます。



(1) 延長カバー

6. 反対側も同様の手順で、延長カバーを取り付けます。

マッドレスカバーの上手な使用方法

⚠ 警告
傷害事故の防止のため、ゴムカバーの装着確認をする場合、次の事を守ってください。
- **トラクタを平たんな広い場所に置く。**
- **エンジンを止め、駐車ブレーキを掛ける。**
- **ロータリが落下しないよう、作業前に必ずトラクタの油圧をロック（停止）してください。**
  - **油圧ロック方法**
    油圧ロックレバーを右いっぱいに回し、トラクタの油圧をロックしてください。
- **爪軸の下に木の台などを設置し、より安全性を確保する。**

マッドレスカバーはロータリ内側の泥の付着を低減します。作業後の清掃の負担を減らし、移動時の泥落としも抑えます。

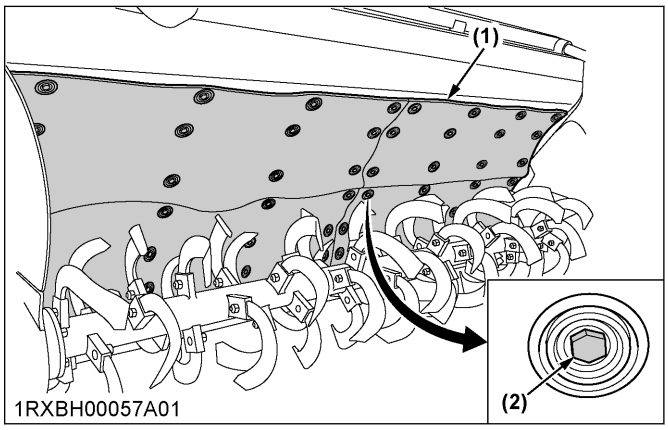
重要：
- **作業前には、マッドレスカバーがしっかりと装着されているか、ボルト類のゆるみがないか確認し、ゆ**

るみがある場合は確実に締め付けてください。締め付ける場合はボルトのまわりの土をよく落としてから行ってください。

締付けトルク

ボルト	25.5 N·m～29.4 N·m (2.6 kgf·m～3.0 kgf·m)

- **マッドレスカバーに付着している土を取り除く場合、ナイフなどの鋭利な物の使用はさけてください。**
- **マッドレスカバーに大きな破れやキズが発生した場合は、速やかに補修してから使用してください。(詳細はマッドレスロータリ、ゴムカバー用補修剤の使用方法（42 ページ）を参照)**
- **ロータリを地面に降ろしたままバックしないでください。耕うん爪でゴムカバーを損傷させるおそれがあります。**



(1) マッドレスカバー
(2) ボルト

補足：
- **角張った石の多いほ場では、マッドレスロータリの使用を控えてください。**
- **普通爪、ロングカット爪は使用しないでください。**
- **ゴムカバー内部に泥が滞留しゴムカバーと耕うん爪が接触する場合は、ゴムカバー内部の泥を取り除いてください。**

スプリングロックの調整

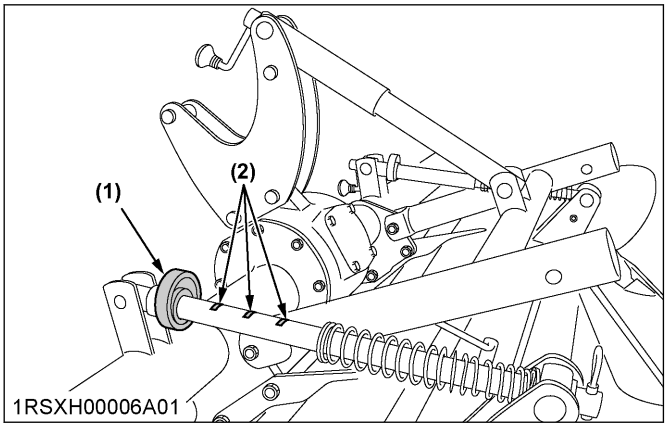
⚠ 警告
- **スプリングロックの操作は必ずロータリを地上に降ろし、エンジンを停止してから行ってください。**
- **スプリングロックを操作するときは、必ずスプリングロックの握り部だけを持って操作してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **スプリングが押し付けられた状態でスプリングロックを操作するときは、必ず最後までグリップを握った状態で操作してください。途中で手をはなすと、グリップが上方へいきおいよく飛び出し危険です。**

ロータリカバーの接地圧の調節を工具なしで簡単に行えます。

1. スプリングロックの位置

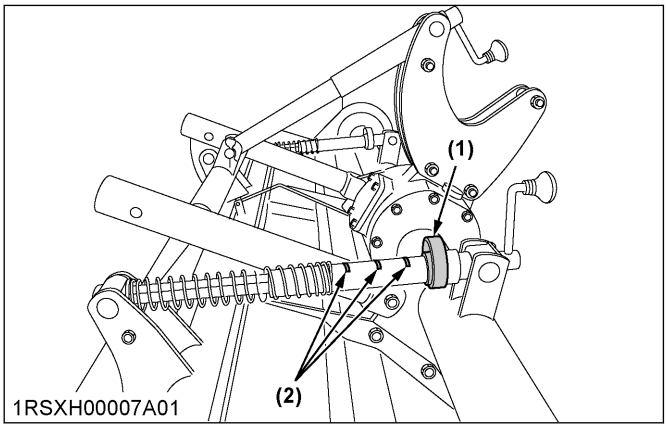
- 接地圧条件に合わせてロッド溝をお選びください。前から 1 番目、2 番目……とセット位置を後方に下げるにつれ、押付力は強くなります。
- 通常は前から 1 番目の溝にセットしてください。

左側のロッド



(1) スプリングロック
(2) ロッド溝

右側のロッド

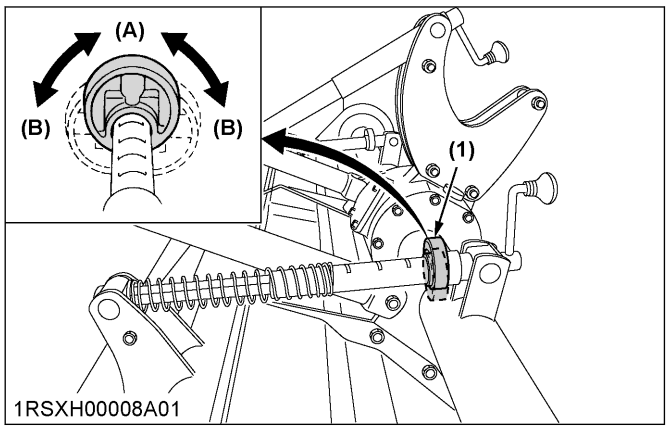


(1) スプリングロック
(2) ロッド溝

- 特殊な作業、爪の交換などロータリカバー 2 を持ち上げて使用する場合も一番上の溝にセットしてください。

2. スプリングロックの位置決め

1. スプリングロックを約 90 度回し、ロックを解除します。



(1) スプリングロック　*(A)* ロック
(B) 解除

2. その状態でスプリングロックを希望位置まで移動させます。
3. スプリングロックをロックの位置まで回し、少し上下にしゅう動させて確実にロックします。“カチッ”と音が鳴り上下に動かせない位置がロック位置です。

重要：
- **スプリングロックは常にいずれかのロック溝にセットして使用してください。**
- **スプリングが密着する状態で作業すると、スプリングロックが破損するおそれがあります。**
- **次のような場合はロータリをよく洗浄し、土を完全に取り除いた後、しゅう動部に注油してください。**
  - **ロータリを長期間使用しないとき**
  - **操作が重くなったとき**

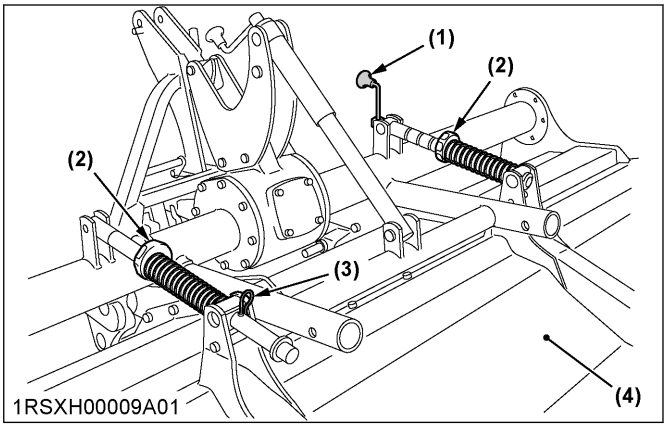
イージーリフタの調整

重要：
- **ロータリカバー 2 を上げて保持する場合は、必ずセットピンを併用してください。セットピンを併用せず、イージーリフタだけで保持した場合、ロータリカバー 2 が破損することがあります。**

イージーリフタハンドルを回すだけで、ロータリカバー 2 の上げ下げを行えます。
また、ロータリカバー 2 は左側のロッドのセットピン穴で、3 段階の高さで調整および保持ができます。

1. ロータリカバー 2 を上げた状態で保持する場合

1. ロータリカバー 2 を希望の少し上の高さまでイージーリフタハンドルで巻き上げ、左側のロッド穴にセットピンを挿入します。



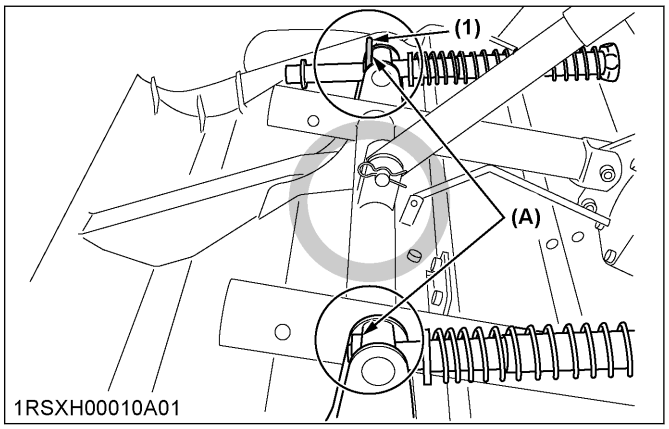
(1) イージーリフタハンドル
(2) スプリングロック
(3) セットピン
(4) ロータリーカバー *2*

2. イージーリフタハンドルで、次の図の部分に隙間が無いようカバー 2 を巻き下げます。

補足：
- **スプリングロックによりスプリングが完全に縮んだ状態になった場合は、それ以上イージーリフタハンドルでカバー 2 を巻き上げないでください。スプリングロックが破損することがあります。**

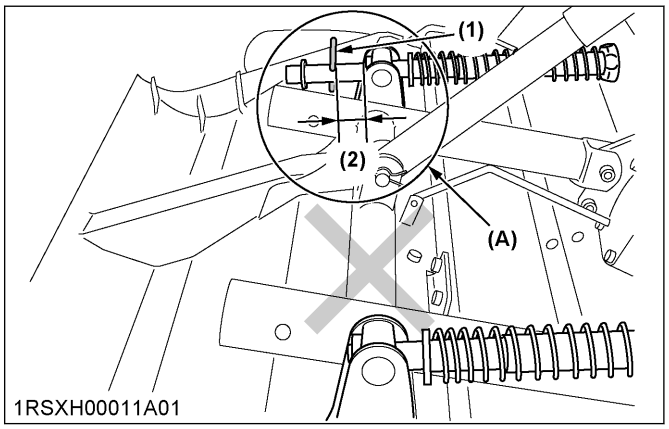
重要：
- **必ず、左右のロッドの次図の部分に隙間が無いようハンドルでカバー 2 を巻き下げてください。隙間があると、ロータリカバー 2 が破損することがあります。**

隙間が無いとき

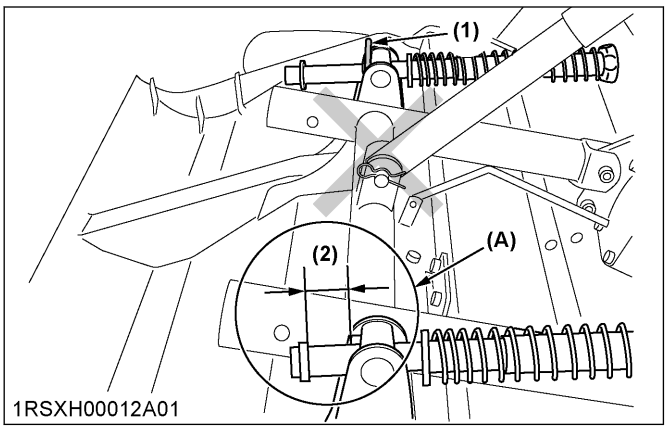


(1) セットピン　　*(A)* 隙間無し

一方に隙間があるとき



(1) セットピン　　*(A)* 隙間あり
(2) 隙間



(1) セットピン　　*(A)* 隙間あり
(2) 隙間

2. ロータリカバー 2 の保持を解除し、下げる場合

1. ロータリカバー 2 をハンドルで少し巻き上げセットピンを抜き、ロータリカバー 2 を巻き下げます。

重要：
- **耕深自動で作業する場合、必ずロータリカバー 2 を最下げの状態まで巻き下げてください。**
  最下げ状態以外で使用すると、耕深制御が正常に作動しません。
  ただし、S モードはロータリカバー 2 を最下げ状態にしても正常に作動します。
- **道路走行時は、ロータリカバー 2 を最下げの状態にしてください。**

補足：
- **ロータリカバー 2 を最下げの状態で使用する場合、セットピンは左側のロッド後端に格納してください。**

逆転 PTO の使用方法

トラクタの逆転 PTO を使用して次の作業が行えます。
- 軟弱地での土寄せ作業
  代かき作業などを行う軟弱なほ場で、泥などが盛り上がっている場合、逆転 PTO を使用して前進しながら土寄せを行うと、効果があります。このとき、エンジン回転数を 1500 rpm 以下で作業すると泥飛びも少なくなります。
- 爪軸に巻付いた草を除去する
  耕うん中に草などが巻き付いた場合、ロータリを持ち上げて、逆転での空転、正転での空転を数回くり返すと、草の巻付きがゆるみ、取りやすくなります。

重要：
- **逆転 PTO を使用して、次の作業は行わないでください。ロータリ破損の原因になります。**
  – 逆転耕うん作業

- **未耕地および石の多いほ場での土寄せ作業**
- **ロータリ爪、爪軸を逆に取り付けて行う耕うん作業**

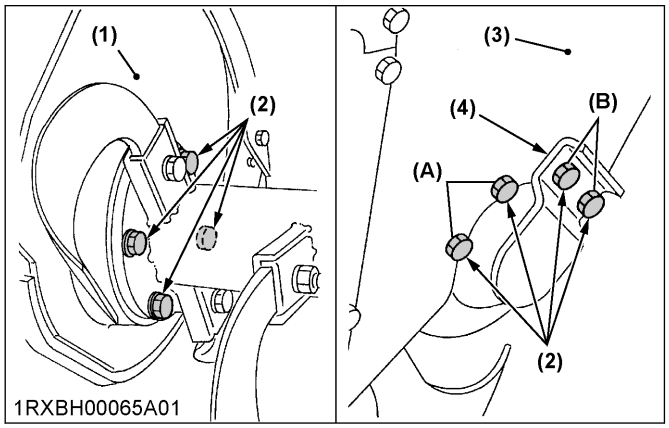
爪軸交換のしかた

⚠ 警告

傷害事故の防止のため、爪軸交換をする場合、次の事を守ってください。

- **トラクタを平たんな広い場所に置いてください。**
- **エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてください。**
- **ロータリが落下しないよう、作業前に必ずトラクタの油圧をロック（停止）してください。**
  - **油圧ロック方法**
    油圧ロックレバーを右いっぱいに回し、トラクタの油圧をロックしてください。

1. チェーンケース側爪軸取付けボルト（4 本）、およびサイドフレーム側ベアリングケース取付けボルト（4 本）をゆるめます。



(1) チェーンケース
(2) ボルト（*4* 本）
(3) サイドフレーム
(4) ホゴカバー
(A) 25 mm
(B) 30 mm

2. 油圧ロックレバーを解除位置、または落下速度調節グリップを開位置にし、耕うん爪が水平地面上に着くまでゆっくりと降ろし、再度油圧をロックした後で、ボルトを外します。
3. 爪軸を交換し、ボルトを締め付けます。

重要：

- **ボルトが作業中にゆるまないように、確実に締め付けてください。**

締付けトルク

チェーンケース側爪軸取付け		157.6 N·m～166.5 N·m（16.0 kgf·m～17.0 kgf·m）
サイドフレーム側爪軸取付け	前側 2 本（M12×30、ホゴカバーと共締め）	77.4 N·m～90.2 N·m（7.9 kgf·m～9.2 kgf·m）
	後側 2 本（M12×25）	

補足：

- **爪軸は、爪軸取付けフランジの[L]の刻印が、チェーンケース側にくるように取り付けてください。**

日農工規格（標準 3P-Ⅱ型）に適合する作業機への交換

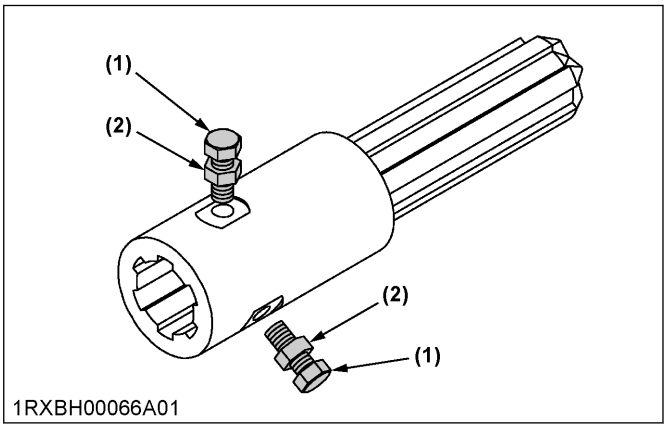
⚠ 警告

- **PIC アダプタはロックボルト（2 本）で確実にロックしないと抜けるおそれがあります。**

締付けトルク

ロックボルト	29.4 N·m～34.3 N·m（3.0 kgf·m～3.5 kgf·m）
ロックナット	23.5 N·m～27.5 N·m（2.4 kgf·m～2.8 kgf·m）

代かきハローなど、日農工規格（標準 3P-Ⅱ型）に適合する作業機と交換する場合は、PIC アダプタを作業機側入力軸に装着してください。
ユニバーサルジョイントやオートヒッチフレームはそのままで交換ができます。



(1) ロックボルト
(2) ロックナット

補足：

- **作業機を複数お持ちの場合、別売りでお買い求めいただくと、作業機ごとに付け換えることがなく便利です。**

品番	品名	個数
99660030890	アダプタ（PIC）	1
99660030900	ボルト（アダプタ）	2
99660001580	ナット	2

日常点検および作業前の点検

⚠ 警告

- **安全カバー類を外した状態でロータリを使用しないでください。また、紛失したり損傷した場合、交換してください。**
  巻込まれや切傷事故の原因になります。

点検箇所

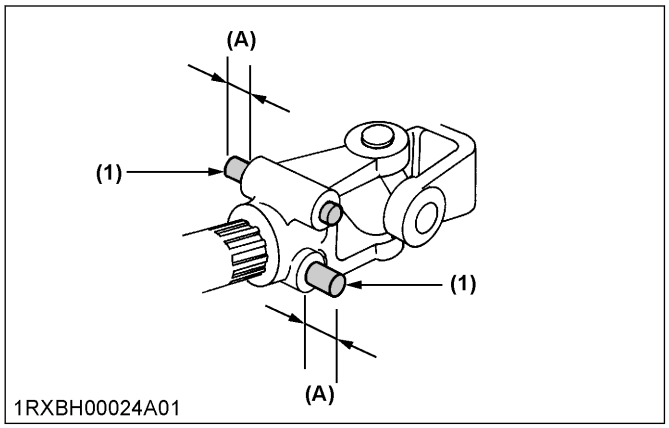
故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
日常点検は毎日欠かさず行ってください。
また、点検は次の順序で行ってください。

1. 前日、前使用時の異常箇所。
2. ロータリの点検ポイント。
   - 爪および爪軸取付けボルトのゆるみ
   - 草巻付き防止ワイヤのゆるみ
   - ロータリ各部のボルトおよびナットのゆるみ
   - ユニバーサルジョイントのロックピンの確認（詳細はユニバーサルジョイントのロックピンの確認（36 ページ）参照）
   - 油漏れ

点検のしかた

1. ユニバーサルジョイントのロックピンの確認

- ロックピンが正確に溝にはまったかどうかの確認は、ピンの頭が 7 mm 以上出ているかどうかを調べてください。



(1) ロックピン　　*(A) 7 mm* 以上

ロータリの簡単な手入れと処置

廃棄物の処理について

⚠ 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは

- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水（AdBlue）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。**

洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損、損傷、および故障させることがあります。
高圧洗車機の取扱説明書、ラベルに従って、正しく使用してください。

⚠ 注意

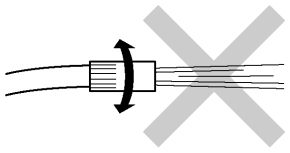
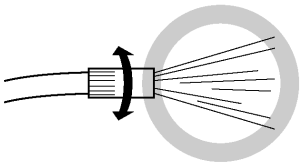
洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、

- **電気配線部被覆の損傷、断線により、火災を引き起こすおそれがあります。**
- **油圧ホースの破損により、高圧の油が噴出して傷害を負うおそれがあります。**

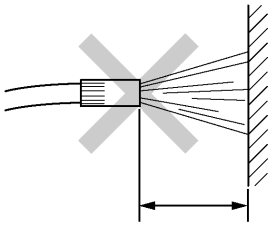
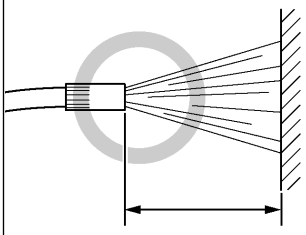
重要：

- **洗車のしかたが不適切な場合、以下のような機械の破損、損傷、故障の原因になります。**
  （例）
  - **シール・ラベルの剥がれ**
  - **電子部品、エンジンやトランスミッション室内、安全キャブ室内などへの浸入による故障**
  - **タイヤ、オイルシールなどのゴム類、樹脂類、ガラスなどの破損**
  - **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**

直射洗車厳禁

直射	拡散
	
1LMSE00008A01	1LMSE00008B01

近距離洗車厳禁

	
1LMSE00036A01	1LMSE00036B01
2 m 未満	2 m 以上

定期点検箇所一覧表

⚠ 警告

傷害事故の防止のため、点検整備をする場合、次の事を守ってください。

- **トラクタを平たんな広い場所に置いてください。**
- **エンジンを止め、駐車ブレーキを掛けてください。**
- **ロータリが落下しないよう、作業前に必ずトラクタの油圧をロック（停止）してください。**
  - **油圧ロック方法**
    油圧ロックレバーを右いっぱいに回し、トラクタの油圧をロックしてください。
- **爪軸の下に木の台などを置き、より安全性を確保してください。**

次の定期点検表に従って、必ず定期点検を行ってください。

No.	点検項目		アワーメータの表示時間						参照ページ
			50	100	150	200	250	300	
1	ギヤケース	油量点検		○	○	○	○		40
		オイル交換	◎*1					○	
2	チェーンケース	油量点検		○	○	○	○		40
		オイル交換	◎*1					○	
3	グリースの補給 ・ ユニバーサルジョイント ・ アジャスタ（後 2 輪調整ネジ部） ・ ホルダ（ジョイント）、ロータリ入力軸		○	○	○	○	○	○	40
	注油 ・ オートヒッチフレーム各回動部 ・ スプリングロックしゅう動部 ・ オートハンガしゅう動、回動部 ・ 草巻付き防止ワイヤの U 金具部 ・ ユニバーサルジョイントカバーしゅう動部								
4	グリースの交換 ・ 爪軸ベアリングケース				○			○	41

*1　◎印はならし運転時の 50 時間使用後に必ず行ってください。

補足：

- **代かき作業などで各部に泥水が入ったときは、洗車後にグリースの補給および注油を行ってください。**

給油一覧表

給油（水）項目	容量（L）	使用オイル
ギヤケースオイル	2.5	自動車 3 種 SAE90
チェーンケースオイル	2.0	
グリースの注入および塗布 • ユニバーサルジョイント • アジャスタ（後 2 輪調整ネジ部） • ホルダ（ジョイント）、ロータリ入力軸 グリースの交換 • 爪軸ベアリングケース	適量	極圧（万能）グリース
注油 • オートヒッチフレーム各回動部 • スプリングロックしゅう動部 • オートハンガしゅう動、回動部 • 草巻付き防止ワイヤの U 金具部 • ユニバーサルジョイントカバーしゅう動部	適量	自動車 3 種 SAE90

（オイル、およびグリースの種類の詳細は、推奨オイルおよびグリース一覧表（46 ページ）を参照）

各部の油量点検と交換

使用するギヤオイルは、必ず指定オイルを使用してください。
(詳細は推奨オイルおよびグリース一覧表（46 ページ）を参照)

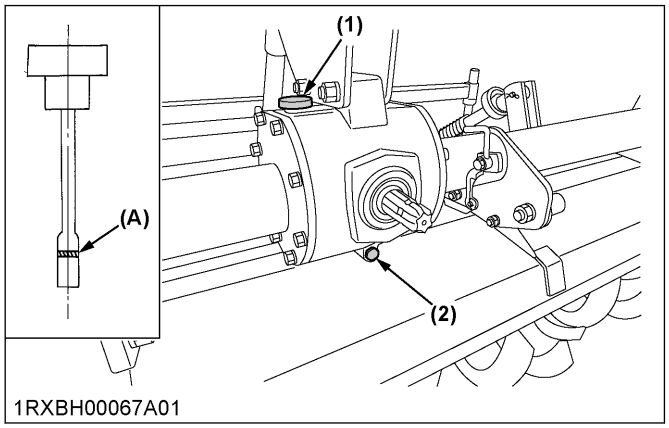
補足：

- **点検するときは、ロータリをトラクタに装着したまま、水平な地面に置いて行ってください。傾いていると正確な油量を示さないことがあります。**

1. ギヤケース

油量点検のしかた

1. ロータリを降ろします。
2. 給油プラグを抜いて、オイルゲージの先端をきれいに拭きます。
3. 給油プラグを挿し込んで再び抜き、オイルゲージの刻み線までオイルがあるか確認します。
4. 刻み線以下の場合は補給します。



(1) 給油プラグ　　*(A)* 刻み線
(2) ドレーンプラグ

交換のしかた

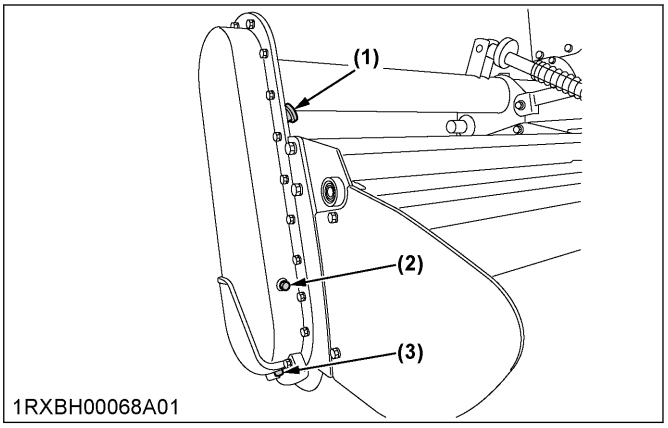
1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。オイルが抜けたらドレーンプラグをしっかりと締め付けます。ゴム付座金に変形や損傷がある場合は新品に交換してください。
2. ギヤオイルを給油口から、規定量入れます。

ギヤオイル規定量	2.5 L

2. チェーンケース

油量点検のしかた

1. ロータリを降ろして、検油プラグを外し、検油口までオイルがあるか調べます。
2. 検油口以下の場合は補給しますが、検油口以上には入れないでください。



(1) 給油口
(2) 検油プラグ
(3) ドレーンプラグ

交換のしかた

1. ドレーンプラグを外してオイルを排出します。オイルが抜けたらドレーンプラグをしっかりと締め付けます。ゴム付座金に変形や損傷がある場合は新品に交換してください。
2. ギヤオイルを給油口から、規定量入れます。

ギヤオイル規定量	2.0 L

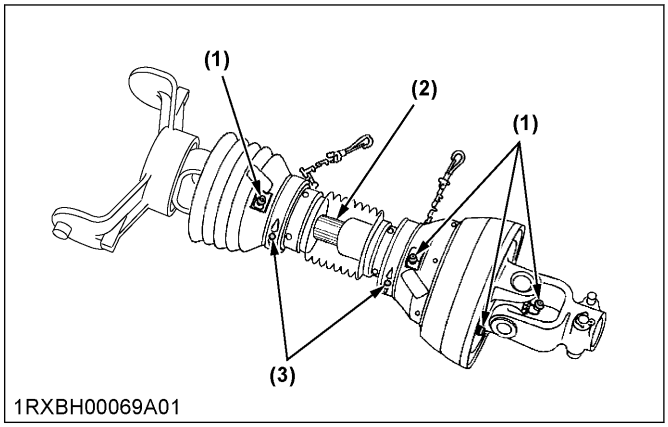
グリースの補給と注油

通常のグリースアップは、定期点検箇所一覧表に従って行ってください。ただし、代かき作業などで各部に泥水が入ったときは、洗車後必ずグリース補給、注油をしてください。
グリースは、推奨グリースを使用してください。
(詳細は推奨オイルおよびグリース一覧表（46 ページ）を参照)

1. ユニバーサルジョイント

1. しゅう動部は、ジョイントのオスおよびメス部を切り離して補給します。
   (ジョイントの着脱の詳細はオートヒッチフレーム、ユニバーサルジョイントの取付け（11 ページ)、ユニバーサルジョイントの取外し方法（16 ページ）を参照)

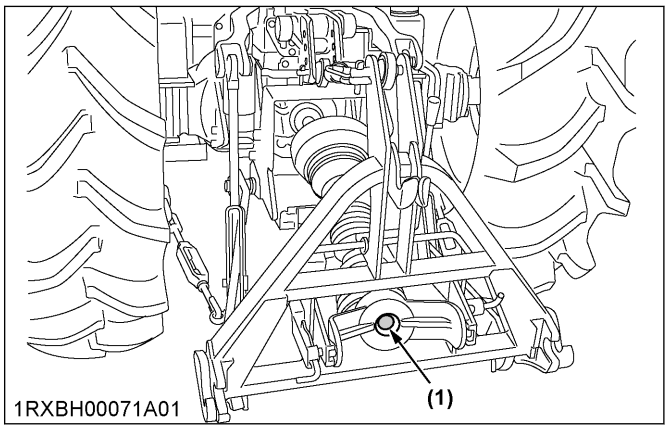
   補足：
   - **PTO 軸およびロータリ側の軸にも、薄く塗布してください。**



(1) グリースニップル
(2) カバー内のしゅう動部
(3) ユニバーサルジョイントカバーしゅう動部

2. ホルダ（ジョイント)、ロータリ入力軸

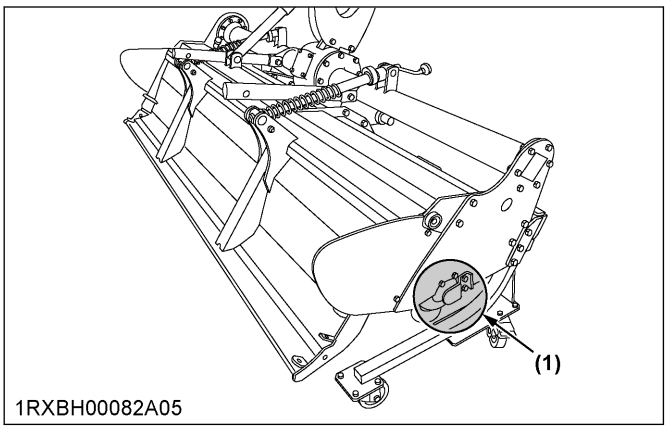
1. 湿田耕うんや代かき作業後は必ず、また定期的にもロータリを切り離し、ホルダ（ジョイント）とロータリ入力軸の泥をきれいに洗い流し、次図の箇所にグリースを適量塗布してください。



(1) ホルダ（ジョイント）

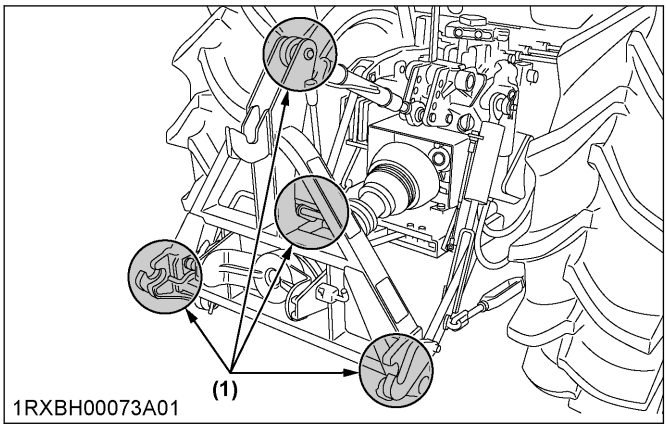
3. 爪軸ベアリングケース

1. サイドフレームの保護カバーとキャップを外し、グリースを交換してください。



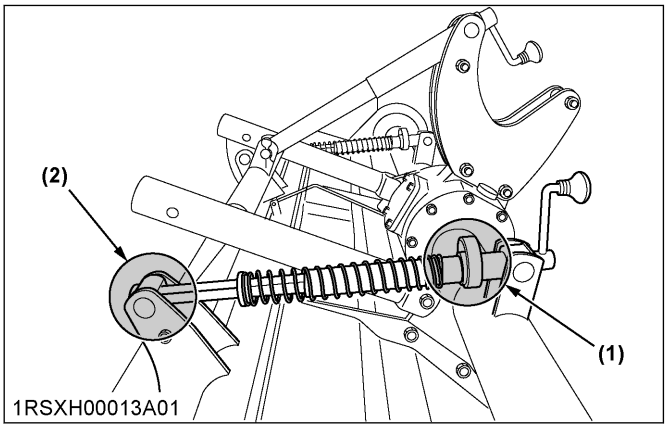
(1) 爪軸ベアリングケース

4. オートヒッチフレーム各回動部



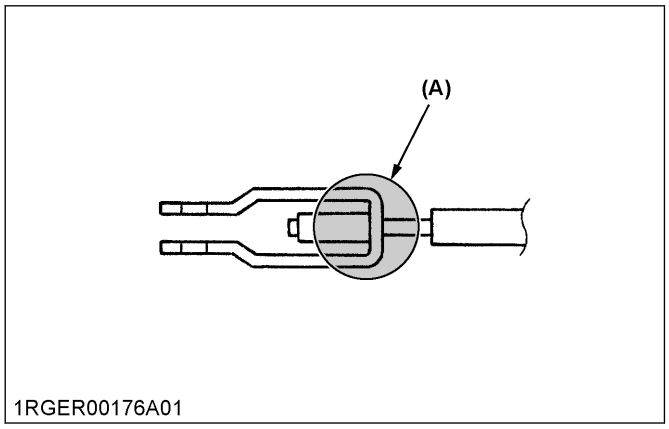
(1) オートヒッチフレーム各回動部

5. スプリングロックしゅう動部およびイージーリフタしゅう動部、回動部



(1) スプリングロックしゅう動部
(2) イージーリフタしゅう動、回動部

6. 草巻付き防止ワイヤの U 金具部



(A) 注油

マッドレスロータリ、ゴムカバー用補修剤の使用方法

重要：

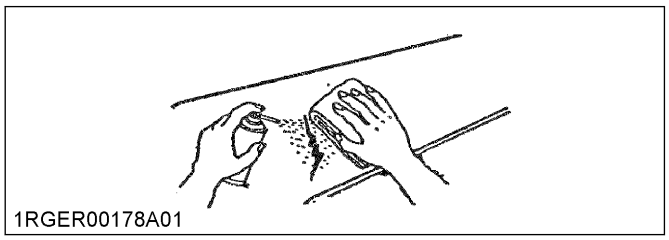
- **マッドレスカバーに大きな破れやキズが発生した場合は、速やかに補修してから使用してください。**

補修部品

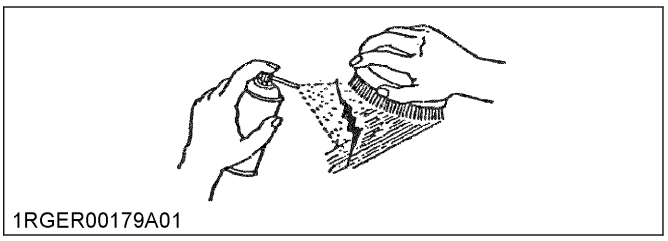
品名	品番
パッチ（M）	99660027280
接着剤	99660027290
脱脂剤	99660027300
ブラシ	99660027310

補修のしかた

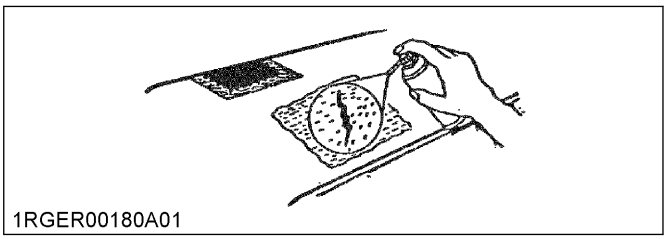
1. ゴムカバーの周辺部（貼ろうとするパッチより大きめの部分）に、脱脂剤を吹きつけ、古タオルなどで汚れの油類を拭きとってください。



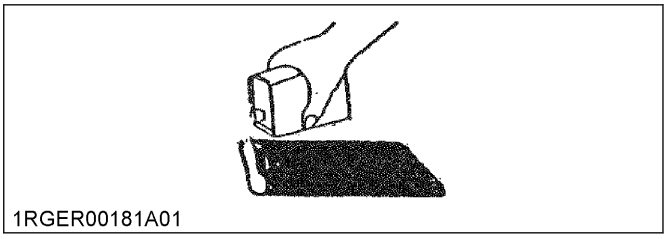
2. 汚れを取ったゴムカバー面に脱脂剤を吹きつけ、脱脂剤が乾かない内にワイヤーブラシでバフ掛けしてください。
   ※2 回ほど作業を繰り返すと効果が大きくなります。



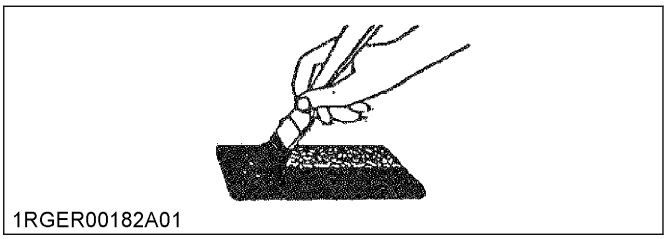
3. 仕上げに再度脱脂剤を吹きつけ、バフ粉などを取除いてください。脱脂剤が完全に蒸発してから接着剤を塗布し、パッチの貼付作業に入ってください。



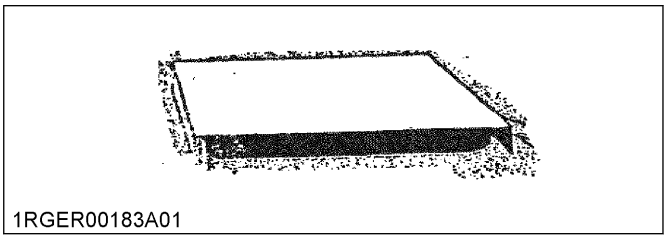
4. 接着剤をバフ掛けした部分に流してください。



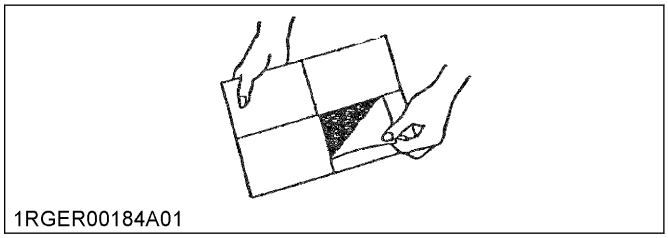
5. 接着剤をハケでタマリのない様に薄くムラなく伸ばし完全に乾燥させてください。
   ※乾燥時間 3～8 分（常温）



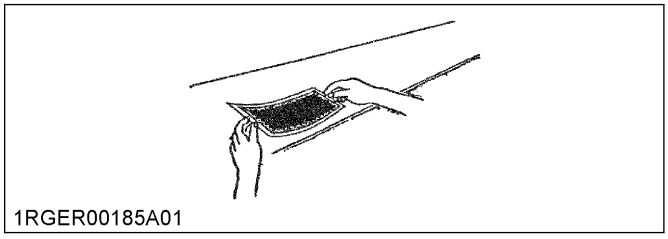
6. 紫外線を避けるため、遮光板をのせて 3～8 分乾かしてください。



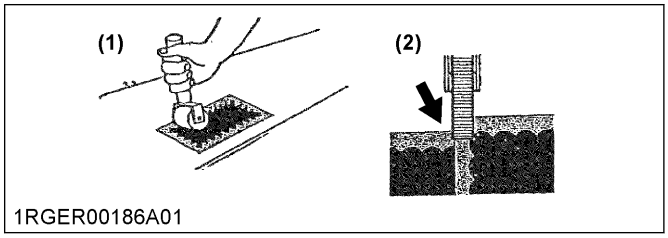
7. 接着剤が乾燥する間にパッチの裏面のフィルムをめくってください。接着面に手の油、ホコリなどがつかないように注意してください。


1RGER00184A01

8. パッチの端の透明フィルムを持ってゴムカバーに貼付けてください。


1RGER00185A01

9. 丸ローラー、ハンマーなどでじゅうぶんに圧着させてください。重ね貼りをする場合、 ⬇ の部分はギザローラーでじゅうぶんに押えてください。パッチ裏面の透明フィルムをはがして作業完了です。



1RGER00186A01

(1) 丸ローラー
(2) ギザローラー

ロータリ分解時の注意

整備などの目的でギヤケース、チェーンケースなどを分解する場合は、必ず新しいオイルシール、ゴムキャップ、ゴム付座金、液状ガスケット、コーティングボルトなどと交換してください。オイル漏れの原因となります。
液状ガスケットは**スリーボンド 1206C** または **1206D** またはその相当品を使用し、必ず塗布面を脱脂してください。

付表

主要諸元

型式		RD205RC	RD225RC	RD245RC
駆動方式		サイドドライブ		
機体寸法*1	全長（mm）	1280		
	全幅（mm）	2180	2380	2580
	全高（mm）	1340	1340	1340
質量（kg）*2		455	470	490
適応トラクタ		GV60、65 GVK60、65、70 GV601、651、701 GVK651、701	GV60、65、70 GVK60、65、70 GV601、651、701 GVK651、701	GV65、70 GVK65、70 GV651、701 GVK651、701
標準耕幅（mm）		2000	2200	2400
標準耕深（mm）		～180		
標準作業速度（km/h）		0.9～4.5		
入力軸回転数（rpm）	GV601、651、701 GVK651、701 GV60、65、70 GVK60、65、70	正転：589、828、1170　逆転：523（エンジン：2600）		
装着方式		標準３点リンク式（日農工標準 3P-Ⅰ、Ⅱ　兼用型オートヒッチフレーム）		
耕うん軸回転数（rpm）	GV601、651、701 GVK651、701 GV60、65、70 GVK60、65、70	正転：206、289、409　逆転：183		
耕うん爪取付方法		ホルダタイプ		
耕うん爪の種類と本数		51AZ 号 なた爪 R、L 各 19 本	51AZ 号 なた爪 R、L 各 19 本	51AZ 号 なた爪 R、L 各 25 本
		51CZ 号 増幅爪 R、L 各１本	51CZ 号 増幅爪 R、L 各１本	51CZ 号 増幅爪 R、L 各１本
耕うん爪の外径（mm）		510		
耕深調節機構		MAC（自動耕深制御）		
耕うん作業能率（分/10a）6000/（w・V・E）*3		8.9～44.4	8.1～40.4	7.4～37.0

*1　最短状態、オートヒッチフレーム付き

*2　オートヒッチフレーム付き（ユニバーサルジョイントは含まない）

*3　w：標準耕幅（cm）、V：標準作業速度（km/h）、E：ほ場作業効率（0.75）

アタッチメント一覧表

耕うん関連

品番	品名	用途および仕様	適応型式		
			RD205RC	RD225RC	RD245RC
99660027320	Z ヅメセット 40	51AZ 号 R、L 各 19 本 51CZ 号 R、L 各 1 本	○	○	
95350000160	Z ヅメセット 52	51AZ 号 R、L 各 25 本 51CZ 号 R、L 各 1 本			○
99660025410	爪取付部品 1	ボルト、ナット、バネ座金各 1 個	○ 40	○ 40	○ 52
99660030880	オートヒッチフレームスタンド	オートヒッチフレームまたはジョイントの着脱作業容易化および単体移動	○	○	○

公道走行関連

品番	品名	用途および仕様	併用アタッチメント
3218211210	ラベルキット（公道走行）	全幅が 2.5 m を超えるときなど	
3218211220	ラベルキット（反射）	後部反射器が隠れて見えなくなるときなど	
3218211230	ワイヤハーネス（8P 変換キット）	トラクタにトレーラコネクタは装備されているが、ピン配置が日本農業機械工業会規格になっていないとき	
3218211240	コンビランプキット（リヤ）	リヤコンビランプが隠れて見えなくなるとき	外側表示キット（ロータリ）または外側表示キット
3218211250	コンビランプキット（フロント）	フロントコンビランプが隠れて見えなくなるとき	
3218211260	後退灯キット	後退灯が隠れて見えなくなるとき	
3218211270	外側表示キット（ロータリ）	純正ロータリを装着することで全幅が 2.5 m を超えるとき	コンビランプキット（リヤ） コンビランプキット（フロント） 後退灯キット
3218211280	外側表示キット	作業機を装着することで全幅が 2.5 m を超えるとき	

補足：

- **公道走行関連のアタッチメントは、装着するトラクタによって必要なアタッチメントが異なります。必要なアタッチメントをご確認いただき、正しく対応した状態で、公道を走行してください。（詳細は、公道走行時の注意（9 ページ）を参照）**

標準付属品

取扱説明書	1
保証書	1
スパナ（8-12）	1
アダプタ（PIC）	1
ボルト（アダプタ）	2
ナット	2

推奨オイルおよびグリース一覧表

必ず次の指定オイルを使ってください。

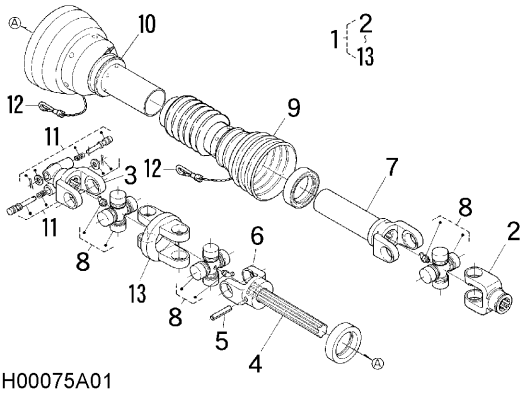
1. ギヤオイル

ギヤオイル	自動車用３種 SAE90

2. グリース

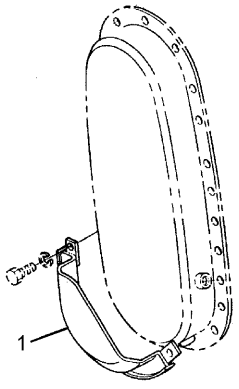
極圧（万能）グリース	• ENEOS： エピノックグリース AP2 • コスモ石油ルブリカンツ： ダイナマックス No.2 • 出光興産： ダフニーエポネックス SR2

主な消耗部品一覧表



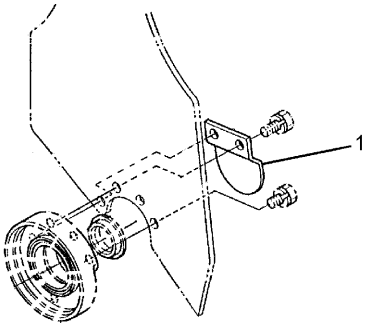
1RXBH00075A01

図番	品名	品番	個数
1	ユニバーサルジョイントアッシ	99660026450	1
2	ヨーク（1）	99660026460	1
3	ヨーク（2）	99660025640	1
4	シャフト（スプライン）	95350000170	1
5	ピン（スプリング）	99660025720	1
6	ヨーク（3）	99660025710	1
7	ヨーク（スリーブ）	95350000180	1
8	ヨーク（スパイダ）	99660025670	1
9	カバー（S、アッシ）	95350000190	1
10	カバー（L、アッシ）	95350000200	1
11	ピン、アッシ（ロック）	99660025730	2
12	チェーン（ビクター、シンナスカン）	95350000260	2
13	ヨーク（ワイドアングル）	99660025700	1



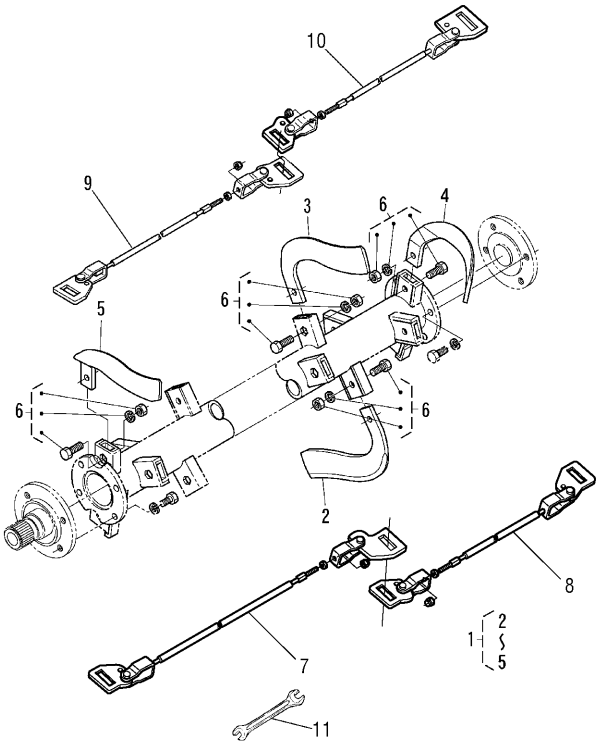
1RXBH00076A01

図番	品名	品番	個数
1	カバー（1、ホゴ）	95350000270	1



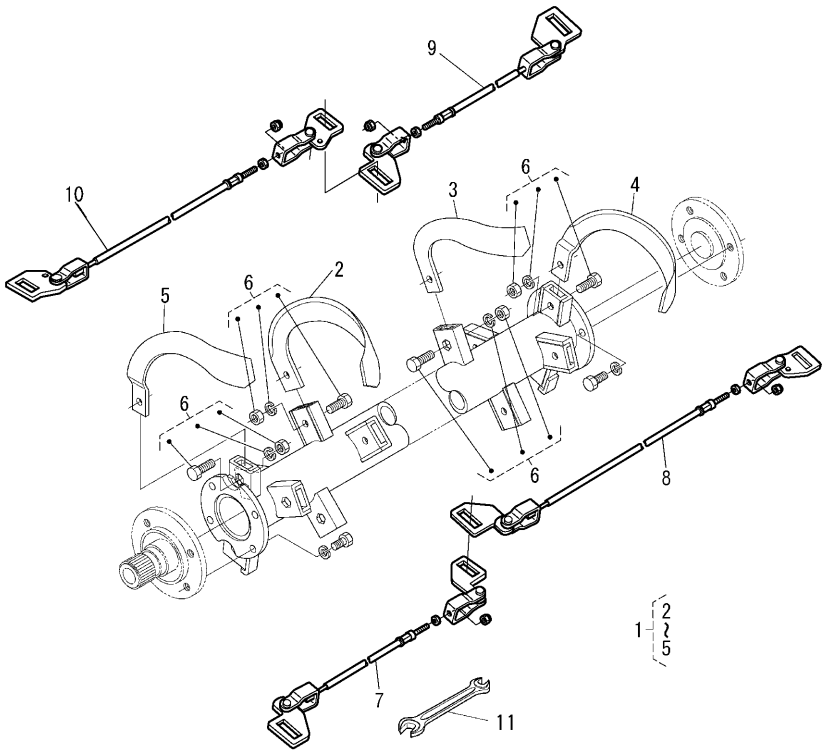
1RXBH00077A01

図番	品名	品番	個数
1	カバー（2、ホゴ）	99660025980	1



1RXBH00016A01

図番	品名	品番	個数		備考
			RD205RC	RD225RC	
1	ハンテン Z ツメセット RD20G	99660027320	1	1	2～5
2	SP ハンテン Z ツメ K51AZR	99660027340	19	19	
3	SP ハンテン Z ツメ K51AZL	99660027350	19	19	
4	SP ハンテン Z ツメ K51CZR	99660027360	1	1	
5	SP ハンテン Z ツメ K51CZL	99660027370	1	1	
6	ツメトリツケブヒン 1	99660025410	40	40	
7	ワイヤ、アッシ（20、A、L）	95350000280	1		
7	ワイヤ、アッシ（22、A、L）	95350000300		1	
8	ワイヤ ASSY	K7E72055520	1		
8	ワイヤ ASSY	K7E72255520		1	
9	ワイヤ	K7E72055610	1		
9	ワイヤ ASSY	K7E72255610		1	
10	ワイヤ、アッシ（20、C2）	95350000290	1		
10	ワイヤ、アッシ（22、C2）	95350000310		1	
11	スパナ（8-12）	99660025530	1	1	



1RXBH00018A01

図番	品名	品番	個数	備考
			RD245RC	
1	Z ヅメセット 52	95350000160	1	2～5
2	SP ハンテン Z ツメ K51AZR	99660027340	25	
3	SP ハンテン Z ツメ K51AZL	99660027350	25	
4	SP ハンテン Z ツメ K51CZR	99660027360	1	
5	SP ハンテン Z ツメ K51CZL	99660027370	1	
6	ツメトリツケブヒン 1	99660025410	52	
7	ワイヤ、アッシ（24、A、S）	95350000330	1	
8	ワイヤ、アッシ（24、A、L）	95350000320	1	
9	ワイヤ、アッシ（24、C、L）	95350000340	1	
10	ワイヤ、アッシ（24、C、S）	95350000350	1	
11	スパナ（8-12）	99660025530	1	

索引

あ

アタッチメント一覧表..... 45
安全ラベル
　手入れ..... 8
　貼付け位置..... 8
イージーリフタ
　調整..... 32
延長カバー
　取付け方法..... 29
延長カバーの使用方法..... 29
オートヒッチフレーム、ユニバーサルジョイントの取付け..... 11
オートヒッチフレーム各回動部..... 41

か

ギヤオイル
　推奨..... 46
ギヤケース..... 40
キャスタスタンド
　格納..... 17
　取付け方法..... 16
　取外し方法..... 17
給油一覧表..... 39
草巻付き防止ワイヤ..... 19
　交換..... 19
　購入部品［RD205RC］..... 19
　購入部品［RD225RC］..... 21
　購入部品［RD245RC］..... 23
　取付け方法..... 24
　取付け方法［RD205RC］..... 19
　取付け方法［RD225RC］..... 21
　取付け方法［RD245RC］..... 23
　取外し方法..... 24
草巻付き防止ワイヤの U 金具部..... 42
グリース
　推奨..... 46
グリースの補給と注油..... 40
けん引ヒッチの取外し..... 11
耕うん爪の配列
　1 つ盛り耕法（乾土効果を必要とする水田の耕起および細土作業）..... 27
　2 つ盛り耕法（乾土効果を必要とする水田の耕起および細土作業）..... 28
　均平耕法（耕起、細土、代かき、および整地作業）27
ご相談窓口..... 9
ゴムカバー
　補修剤の使用方法..... 42

さ

サービスと保証..... 9
主要諸元..... 44
消耗部品一覧表..... 47
スプリングロック
　セット位置..... 31
　調整..... 31
　ロックのしかた..... 32
スプリングロックしゅう動部およびイージーリフタしゅう動部、回動部..... 41
洗車時の注意..... 37

た

チェーンケース..... 40
注意事項
　あゆみ板の使用..... 6
　運転時の注意..... 5
　格納時の駐車操作..... 6
　格納時の駐車場所..... 6
　かたいほ場での対処法..... 6
　共同作業時..... 4
　耕うん爪の点検や交換および調整時の注意..... 4
　交通法規遵守..... 6
　ロータリ使用時の注意..... 5
　作業に適した服装..... 3
　周囲の安全..... 5
　正しい運転方法..... 3
　転倒防止のための重量バランス..... 4
　同乗禁止..... 5
　登坂時の注意..... 6
　廃棄物の処理について..... 7,37
　油圧のロック（停止）方法について..... 5
　ロータリ着脱時の注意..... 3
　ロータリ分解時..... 43
　ロータリを上げた状態での点検整備時..... 4
爪軸交換のしかた..... 34
爪軸ベアリングケース..... 41
定期点検箇所一覧表..... 38
適応作業速度..... 18
トラクタ
　公道走行時の注意..... 9
　トラクタの 3 点リンクの取付け位置の確認..... 11

な

なた爪
　取付け方法..... 18
　取外し方法..... 18
日農工規格（標準 3P-Ⅱ型）に適合する作業機への交換..... 34

は

標準付属品..... 46
補修用部品
　供給年限..... 9
ホルダ（ジョイント）、ロータリ入力軸..... 41

ま

マッドレスカバー
上手な使用方法.....30
マッドレスロータリ
補修剤の使用方法..... 42

や

ユニバーサルジョイント.....41
取外し方法..... 16
ロックピンの確認..... 36

ら

ロータリ
各部の名称..... 10
逆転 PTO の使用方法.....33
点検箇所.....36
点検の順序..... 36
取付け方法..... 13
取外し方法..... 15
ロータリカバー 2
イージーリフタで上げた状態で保持する場合..... 32
イージーリフタでの保持の解除と下げる場合..... 33
ロータリの着脱姿勢の調整..... 13

わ

ワイヤの調整方法..... 26